

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
人間の尊厳と自立 I	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	椿 大輔
授業概要	「人間を理解する」ことが対人援助の専門職になぜ必要なのかを考えるために自己理解と他者理解をすすめ、人間にとっての自立（自律）生活とは何かを考えるために、尊厳と自立の思想についての歴史の変遷をたどる。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 人が人を支援するにあたって大前提となる相手の尊厳を保持することの意味を歴史の変遷から理解し、自己理解と他者理解の視点を身につける</p> <p><目標> 1. 「人間を理解する」ための自己理解と他者理解の意義がわかる 2. 尊厳と自立の思想の歴史の変遷をたどり、現代の自立生活とは何か考えることができる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	過去・現在・未来への志向性を含めた生活の営みの歴史を理解することが「人間を理解する」ことにつながることを学ぶ <キーワード> 尊厳の保持、生命への畏敬、人間的なコミュニケーション				講義
2	「理念価値」の意味を理解し、人間の尊厳がなぜ理念価値といわれているのかがわかる <キーワード> 理念価値				講義
3	「自立」の意義を理解し、そこに含まれる「自律」とは何かかわかる。また、自立と自律の不可分性について学ぶ <キーワード> 自立と自律、自立と自律の不可分性				講義
4	尊厳と自立をめぐる歴史のうち、海外において生まれてきた人権思想の潮流について学ぶ <キーワード> アメリカ独立宣言、フランス人権宣言、自由権				講義
5	尊厳と自立をめぐる歴史のうち、わが国における人権の考え方、特に日本国憲法および各種法律でどのように権利が保障されているのか学ぶ <キーワード> 日本国憲法第13条・第25条、介護保険法第1条、障害者総合支援法第1条				講義
6	事例を通して、様々な福祉サービスが人間の尊厳の保持と自立支援の実現にどのように影響しているのか考える <キーワード> アイデンティティの獲得、障害の受容				講義
7	事例を通して、様々な福祉サービスが人間の尊厳の保持と自立支援の実現にどのように影響しているのか考える <キーワード> 自尊心、個別性				講義
8	提示する本の一節を読み、極限状態におかれた人間の姿と、そこに追いやる人間の姿を考える				講義

9	前回の講義で配布した資料をもとに、それが表現しようとした人間として尊厳とは何か考え、グループワークを通して自らの考えを発言する	講義・演習
10	提示する本の一節を読み、脳死は人の死かどうか考える	講義
11	前回の講義で配布した資料をもとに、それが表現しようとした「人」としてのあり方とは何か考え、グループワークを通して自らの考えを発言する	講義・演習
12・13	ハンセン病の歴史を映像や書籍をもとに振り返り、人としての尊厳とは何か、人間解放とは何を意味していたのかを考え、まとめる	講義・演習
14	前回の講義でまとめた内容を発表するとともに、個々人がもつ価値観の多様性を理解する	発表会
15	これまでの授業を振り返り、人間の尊厳とは何かを改めて考え、自立支援のあり方を自身の言葉で表現できるようになる	演習
評価法	受講態度（20％）、定期試験（80％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 1 『人間の理解』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
人間の尊厳と自立 II	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	椿 大輔
授業概要	「人間を理解する」ことが対人援助の専門職になぜ必要なのかを考えるために自己理解と他者理解をすすめ、人間にとっての自立(自律)生活支援をどのように実践していくのかを学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 個々人の権利としての人権を理解したうえで、利用者の権利侵害の背景や権利擁護、利用者の自立のあり方について考えることができる</p> <p><目標> 1. 権利侵害の背景と権利擁護について理解することができる 2. 事例を通して、介護における尊厳の保持と自立支援を考えることができる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	介護実践を行う専門職として、一人の人間としての利用者の権利とは何かを学ぶ <キーワード> 自己選択、判断、自己決定				講義
2	介護実践を行う専門職として、生活者としての利用者の権利とは何かを学ぶ <キーワード> 生活における主体者、選択と契約				講義
3	利用者の権利侵害が起こる状況を日常生活場面から考える <キーワード> 生活環境、対人関係				講義
4	利用者の権利侵害が起こる状況を社会生活場面から考える <キーワード> 差別や偏見、制度へのアクセス				講義
5	利用者が権利侵害を被る背景と権利擁護の視点について学ぶ <キーワード> アドボカシー、エンパワメント				講義
6	自己決定と自己選択が利用者の自立生活にどのような影響を与えるのかを学ぶ <キーワード> IL運動、積極的・消極的自立、自律				講義
7	国際生活機能分類(ICF)をもとに、「できない」ではなく「できる」力に着目した自立支援のあり方とは何かを考える <キーワード> ICF、絶対的な障害と相対的な障害				講義
8	自立への意欲と動機づけが利用者の行動にどのような影響を与えるのかを学ぶ <キーワード> 動機と欲求、意欲と行動、行動結果と意欲				講義
9	介護における尊厳保持の実践を事例を通して学び、専門職として利用者にどう向き合う必要があるのかを学ぶ <キーワード> 生きる実感、役割				講義
10	介護における尊厳保持の実践を事例を通して学び、専門職として利用者にどう向き合う必要があるのかを学ぶ <キーワード> 自己実現、精神的自立				講義

11	介護における尊厳保持の実践を事例を通して学び、専門職として利用者に向き合う必要があるのかを学ぶ <キーワード> ところを動かす介護	講義
12	身体的・精神的・社会的な自立支援とは何か、身体的側面から考える	講義
13	身体的・精神的・社会的な自立支援とは何か、精神的側面から考える	講義
14	身体的・精神的・社会的な自立支援とは何か、社会的側面から考える	講義
15	これまでの授業を振り返り、権利擁護のあり方と専門職としての姿勢について改めて考え、自らの介護観の一部として身につけていく	講義
評価法	受講態度（20％）、定期試験（80％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 1 『人間の理解』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
人間関係と コミュニケーション	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	椿 大輔
授業概要	介護を円滑に進めていくために必要不可欠となる人間関係の形成について、関係を構築する意味を理解するとともに、コミュニケーションの基礎的技法を学ぶことで主体的に関係構築を図っていけるよう実践力を身につける。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護実践の基礎である人間関係を構築する意味を理解し、主体的に関係構築を実践できる力を身につける</p> <p><目標> 1. 人間関係を構築することがなぜ必要なのかわかる 2. 基礎的コミュニケーション技法がわかる 3. 主体的に関係構築ができる積極的姿勢を身につける</p>				
回	授業概要				展開方法
1	介護者が利用者と良好な人間関係を形成することがなぜ必要なのか理解するために、「良好な関係」と「不良な関係」の介護場面動画を見て、一人ひとりの気づきをもとにグループワークを行い視点の違いについても学ぶ <キーワード> 他者の尊重、介護者の姿勢、言葉づかい				講義・演習
2	人間である以上、「一人ひとりが違う価値観や考え方をもっていて当たり前である」ということを根拠をもって理解できるよう、個々人の認知世界の違いについて学ぶ <キーワード> 個々人の認知世界、主観的世界と客観的世界、受容と共感				講義
3	現代社会がストレスフル社会と言われて久しいが、そのストレスが人間関係の形成にどのような影響を与えるのか理解するとともに、われわれがどのようにストレスを解消しているのかを学ぶ <キーワード> ポジティブストレス・ネガティブストレス、コーピング、燃え尽き症候群				講義
4	高齢・障害等様々な理由により「現在介護を必要としている人」が、特別な存在ではなく、介護者と同じ「こころのメカニズム」をもっており、当たり前のように感情や考えがあることを再認識する <キーワード> こころのメカニズム、BPSDの背景、生涯発達				講義
5	われわれが成長発達していくなかで、人間関係は様々に変化していることを学ぶとともに、発達段階における人間関係形成の課題について学ぶ <キーワード> 愛着行動、エリクソンの発達段階、システム理論				講義
6	われわれは置かれている環境から様々な影響を受けている。そこで、「人と環境との相互作用」がわれわれにどのような影響をあたえ、その結果われわれがどう行動しているのか、いくつかのケースを用いて学ぶ <キーワード> エコロジカルな視点、グループダイナミクス、社会的比較				講義
7	人間関係形成において必要不可欠であるコミュニケーションの目的と意義について学ぶとともに、コミュニケーションの限界についても演習を通して理解する <キーワード> コミュニケーションの定義、言語的・非言語的コミュニケーション、ステレオタイプ				講義・演習

8	われわれは相手を理解する、共感することはできるが、「相手のことがわかる」ことはできないという事実と、「わかったつもりになる」ことの怖さを理解する ＜キーワード＞ 理解、共感、わかる、自己覚知	講義
9	高齢者介護では、利用者は介護者よりも年上であり介護者と利用者の関係性によって言葉づかいや対応が変わることもあるが、他者尊重と良好な人間関係形成を行なっていく上で気をつけるべき点を学ぶ ＜キーワード＞ 慇懃無礼、聞き上手	講義
10	カウンセリング技法である来談者中心療法とは何か理解するとともに、援助者としてもっておくべき姿勢について学ぶ ＜キーワード＞ 来談者中心療法、自己一致・無条件の肯定的関心・共感的理解、非指示的雰囲気づくり	講義
11・12	介護福祉士として日常的に行う生活場面面接とは何か理解し、その構造を学び、この面接技法を実践できる力を演習を通して実践し、全体での振り返りを通して自己覚知を行う ＜キーワード＞ 生活場面面接、面接の基盤づくり、感情系・論理系の対応方法	講義・演習
13	コミュニケーション技法としての動作法と手話を取り上げ、この技法が生まれた背景と動作法においては利用者の動作体験について、手話においては構造を中心に学ぶ ＜キーワード＞ ボディランゲージ、共体験、手話の構造	講義
14	コミュニケーションが情報の伝達である以上、受け取った情報を理解する力と相手にわかりやすく伝える表現力が必要になるため、非言語の部分から情報を理解する力や的確に情報を伝えるには何に注意すべきなのかを学ぶ ＜キーワード＞ 自己覚知、アサーティブな表現、SOAP	講義
15	これまでの授業を振り返り、専門職としてのみならず、人間関係を形成していくことの難しさと必要性を振り返り、今後の自分の課題と目標を表現できるようになる	講義・演習
評価法	受講態度（20％）、定期試験（80％）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 1 『人間の理解』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
社会の理解 I	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	安東 由美子
授業概要	人間の生活と社会がどのような関連をもっているのかを学び、社会福祉諸制度における基礎的な理解を深めていく。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 個人が自立した生活を営むということを理解するために、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について知る。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する</p> <p><目標> 1. 人間を捉える単位について各々の視点を説明できる 2. 社会福祉諸制度の基本的な考え方やしくみの違いを説明できる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	生活とは何か、家族とは何かを学び、多様化する家族観を理解する				講義
2	地域社会に生活する個人と地域社会の集団や組織を学ぶ				講義
3	現代における労働環境と家庭を学び、育児と介護を支えるしくみを理解する				講義
4	わが国における社会福祉と社会保障の役割を理解し、地域福祉の視点から社会福祉の基本的な理念や役割を学ぶ				講義
5	社会保障の定義、目的、機能を学び、社会保障の範囲と対象を理解する				講義
6	日本国憲法のなかの社会保障に関する条文を理解する				講義
7	第二次世界大戦後から現代に至る間の社会保障の歴史を学ぶ				講義
8	社会保障や社会福祉に対する考え方の変化を理解する				講義
9	わが国の社会保障制度を支える考え方やその財源を学ぶ				講義
10	社会保険とは何か、社会扶助とは何かを学び、社会保障制度による給付と負担の方法を理解する				講義
11	わが国の社会保障制度を体系的に理解する				講義
12	年金保険、医療保険、労働者関連の社会保険の概要を理解する				講義

13	公的扶助、社会手当、社会福祉の概要を知る	講義
14	社会保障制度の運営に大きな影響を与える人口問題と財政問題について学び、社会保障の給付と負担の関係を理解する	講義
15	将来にわたって持続可能な社会保障制度を構築するためにはどうすればよいのかを考える	講義・演習
評価法	授業態度（20％）、小テスト（20％）、定期試験（60％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 2 『社会と制度の理解』 中央法規出版	
参考書	特になし	
備考	<受講姿勢について> ・積極的に発言すること ・小テストや課題は丁寧に取り組むこと ・提出期限は厳守すること	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
社会の理解 II	2単位 30時間	15	必修	2年次 後期	椿 大輔
授業概要	介護福祉士として必須となる介護保険制度と障害者総合支援法の学習を通して自立支援のあり方や各種支援体制の理解、制度の動向を踏まえて、現在およびこれからの介護のあり方を学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 「介護を必要とする人」の生き方を支える体制を制度的側面から理解し、専門職として実践に活かす力を身につける</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度の概要理解を通して高齢者の自立支援を支える専門職として必要な知識を修得する 2. 障害者総合支援法の概要理解を通して障害者の自立支援を支える専門職として必要な知識を修得する 3. 介護実践に関する諸制度を理解し、多様な場面で活躍できる知識を修得する 				
回	授業概要				展開方法
1	高齢者保健福祉の概要理解にあたって、導入としてこれまでの高齢者福祉の動向理解から現代日本の課題について理解するとともに、高齢者に関する法律が福祉関係法規と相互の関係にあることを学ぶ				講義
2	高齢者保健福祉施策の中核である「介護保険制度」創設の社会的背景を学び、制度の目的と要介護・要支援状態とは何かを学ぶ				講義
3	介護保険制度利用の申請からサービス支給の流れを学ぶとともに、利用できる保険給付と地域支援事業について学ぶ				講義
4	介護保険制度に関わる行政機関の役割について学び、国・都道府県・市町村の役割の違いを理解する				講義
5	高齢者の自立支援に関わる保健医療福祉の専門職の役割を学ぶとともに、高齢者の自立支援を担う介護福祉士としての介護観を考える				講義・演習
6	障害者保健福祉の概要理解にあたって、導入としてノーマライゼーション理念の浸透とともに障害者の自立支援へと障害者福祉の方向性が変化した制度および理念の変遷を学ぶとともに、障害者に関する法律が福祉関係法規と相互の関係にあることを学ぶ				講義
7	障害者保健福祉の中核である「障害者総合支援制度」創設の社会的背景を学び、制度が目的としている障害者の自立支援のあり方を学ぶ				講義
8	障害者総合支援制度利用の申請からサービス支給の流れを学ぶとともに、利用できる自立支援給付と地域生活支援事業の内容について学ぶ				講義

9	障害者総合支援制度に関わる行政機関の役割について学び、国・都道府県・市町村の役割の違いを理解する	講義
10	障害者の自立支援に関わる保健医療福祉の専門職の役割を学ぶとともに、障害者の自立支援を担う介護福祉士としての介護観を考える	講義・演習
11	個人情報保護や権利擁護、成年後見制度をはじめとした個人の権利を守る制度・施策について、自らの生活に関連しているところから概観し、支援を必要とする人へのケア的視点およびソーシャルワーク的視点からのアプローチ方法を学ぶ	講義
12	介護実践に関連する諸制度のうち、児童・障害者・高齢者虐待防止法、配偶者暴力防止法に関する虐待の定義および発見時の通報先等を学ぶ	講義
13	保健医療に関する諸制度のうち、生活習慣病予防と健康づくりとして実施されている「健康日本21」の具体的数値目標を学ぶとともに、感染症法に規定されている感染症の類型や難病法に規定されている難病患者への医療助成等を学ぶ	講義
14	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度のうち、生存権の保障を目的に施行されている生活保護制度の原理・原則および保護の種類について学び、生活困窮者自立支援法の成立に伴い実施されている行政による必須事業と任意事業を学ぶ	講義
15	これまでの授業を振り返り、「介護を必要とする人」への制度的体制の課題と、介護福祉士として取り組むべき事柄をグループワークを通して検討し、「専門職になる」ことへの自覚をもつ	講義・演習
評価法	受講態度（20％）、定期試験（80％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 2 『社会の制度と理解』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
社会学 I	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	椿 大輔
授業概要	人々の関係性や生活世界に関心をもち、社会理論とは何かを学習することで包括的な「ものの見方」＝「社会を見る眼」を修得し、生活問題への関心を深める。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 社会を体系的に見る眼を養い、介護実践において利用者を取り巻く環境へのアプローチができる実践力を身につける</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会システムのしくみがわかる 2. 家族とそれを取り巻く地域の概念とそのつながりがわかる 3. 人間が社会で獲得していく役割とその葛藤が理解できる 				
回	授業概要				展開方法
1	社会学とは何か？を理解するために、従来からの対象である4領域から現代的な対象領域への変化を確認し、これから学ぶ社会学の目的を明確にする <キーワード> 4つの領域、個人と社会、ミクロ-マクロリンク				講義
2	システム思考が現在の社会を捉える基本であることを踏まえ、システム理論とは何なのかを学ぶ <キーワード> システム理論、創発特性、AGIL4機能				講義
3	社会システムの安定に寄与している規範と文化に焦点をあて、その構造を学ぶ <キーワード> フォークウェイズ・モーレス、サンクション				講義
4	社会資源の配分原理である属性主義と業績主義を中心に、社会階層と社会移動との関連性を学ぶ <キーワード> 属性主義・業績主義、マルクス主義				講義
5	経済というシステムが、われわれの生活にどのような影響を与え、現代日本の市場経済はどのように変化してきたのかを理解する <キーワード> 生きていくうえでの基本的条件、力の不均衡、格差社会				講義
6	近代化、産業化、情報化といった社会変動が起こった背景と、それらがもたらしたわれわれの生活への影響を学ぶ <キーワード> ゲマインシャフト・ゲゼルシャフト、産業革命、グローバルイゼーション				講義
7	わが国における社会変動を人口の側面から観察し、これまで辿ってきた歴史と現在、そしてこれからの社会において課題となる福祉のあり方について考える <キーワード> 人口減少社会、少子高齢化、福祉国家				講義
8	生活とは何かを理解するために、われわれのライフスタイルの変化とライフコースの考え方について学ぶ。 <キーワード> ライフスタイル、ライフサイクル、ライフコース				講義
9	生活の質とは何かを知り、その考え方の変遷と包括的な生活の質の定型化へ向けての考え方を学ぶ <キーワード> QOL、医学モデルと社会モデル、インフォームドコンセント				講義

10	家族という社会事象を学び、制度および集団としての家族の構造を理解する <キーワード> 家族制度、核家族、世帯、生殖・定位家族	講義
11	現代家族がもつ機能を学び、社会に求められている家族とは何かを学ぶ <キーワード> 家族固有の機能、ジェンダー、シャドーワーク	講義
12	社会の変動に伴う家族の変容について世帯の規模や成員に注目し、家族形態と家族機能、人口動態の変化に関連して現れる変容、それらの底流に共通して存在する家族のライフスタイルを学ぶ <キーワード> 家族の小規模化・核家族化・シングル化、個人化	講義
13	「地域」とは何か理解し、その用語が意味する範囲を学ぶ <キーワード> コミュニティ、アソシエーション	講義
14	地域社会の集団・組織を知り、わが国において地域社会がどのように変化してきたのか学ぶ <キーワード> 「いえ」と「むら」の解体	講義
15	地域の過疎化の進行の実態を学び、これからの課題と現在行われている地域のグローバル化について学ぶ <キーワード> 限界集落、外国人登録者	講義
評価法	受講態度 (20%)、定期試験 (80%)	
使用書	毎時間、資料を配布	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
社会学 II	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	椿 大輔
授業概要	人々の関係性や生活世界に関心をもち、社会理論とは何かを学習することで包括的な「ものの見方」＝「社会を見る眼」を修得し、生活問題への関心を深める。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 社会を体系的に見る眼を養い、介護実践において利用者を取り巻く環境へのアプローチができる実践力を身につける</p> <p><目標> 1. 現代社会システムのしくみがわかる 2. 家族とそれを取り巻く地域の概念とそのつながりがわかる 3. 人間が社会で獲得していく役割とその葛藤が理解できる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	社会的行為とは何かを学ぶとともに、その考え方の変遷を学ぶ <キーワード> 行為と行動、創発特性				講義
2	社会的役割とは何かを学び、われわれが生活していくなかでどのように役割を取得し、なぜ役割を果たしていくのかを学ぶ <キーワード> 役割期待、役割取得、役割距離				講義
3	役割と地位の関係を学び、役割が地位に対応する行為の次元を表していることを学ぶ <キーワード> 業績的・属性的地位、役割集合				講義
4	われわれが役割期待に応えようとした際に発生する葛藤について学び、それを回避するための無意識的行動を知る <キーワード> 葛藤回避の社会的メカニズム				講義
5	社会集団の概念を知り、集団がどのように類型化されているのか学ぶ <キーワード> ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、第一次集団と第二次集団				講義
6	近代組織の仕組みを知り、効率性重視の組織と協力関係重視の組織の違いとそれぞれのメリット・デメリットを学ぶ <キーワード> 支配システム、協働システム、官僚制				講義
7	個人的合理性と社会的合理性の矛盾を学び、そこから生まれる社会的ジレンマの状況を理解する <キーワード> 囚人のジレンマ、ゲーム理論				講義
8	社会的ジレンマの理解を踏まえて、その定義とジレンマ解消への方策を考える <キーワード> 選択的誘因、規範意識				講義
9	近年注目されている社会関係資本について学び、その意義を理解する <キーワード> 社会的連帯、社会ネットワーク				講義

10	社会問題の捉え方を学び、犯罪が社会的産物であることを理解する ＜キーワード＞ 社会病理、逸脱、ラベリング理論	講義
11	社会問題が構築される背景にあるレッテルを操作するのは人間であることを学ぶ ＜キーワード＞ スティグマ、逸脱レッテル	講義
12	現代日本で起こっている社会問題を取り上げ、その構造と解決の方策を考える ＜キーワード＞ 貧困、高度消費社会	講義
13	現代日本で起こっている社会問題を取り上げ、その構造と解決の方策を考える ＜キーワード＞ 非行、コミュニケーション能力	講義
14	現代日本で起こっている社会問題を取り上げ、その構造と解決の方策を考える ＜キーワード＞ いじめとひきこもり、ハラスメント、DV	講義
15	共生社会とは何かを知り、その考えの源流から現在求められていることを学ぶ ＜キーワード＞ 異質性と他者性、多文化主義	講義
評価法	受講態度（20％）、定期試験（80％）	
使用書	毎時間、資料を配布	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
児童福祉論	2単位 30時間	15	必修	2年次 後期	椿 大輔
授業概要	児童福祉から児童家庭福祉へという潮流のなかで、子どもが健やかに生まれ育つ環境として最も必要な基盤である家庭の現状を学び、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する必要な知識や倫理等を学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 児童家庭福祉の意義を学ぶとともに現代社会における課題を理解し、専門職としてかかわる際の実践的知識と姿勢を身につける</p> <p><目標> 1. 現代社会における子ども家庭の現在がわかる 2. 児童福祉および子ども家庭福祉の歴史的歩みと制度政策の歴史がわかる 3. 子ども家庭への具体的援助活動がわかる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	子どもや子育て家庭がおかれている現状や現代社会の在りようを社会との関連から理解する <キーワード> 合計特殊出生率、エンゼルプラン、要保護児童				講義
2	子ども家庭の生活を中心に、子どもの育ちと子育てに関する様々なニーズについて理解する <キーワード> 少子化、子ども虐待、ソーシャルキャピタル				講義
3	子どものための福祉とは何かを学ぶために、根底にある「子ども」という存在の意味を考える <キーワード> 子ども観、児童憲章				講義
4	子ども家庭福祉を実践するにあたって不可欠とされる原理や理念を学び、ウェルフェアとウェルビーイングの重要性について理解する <キーワード> 子ども家庭福祉の理念と定義、ウェルフェアとウェルビーイング、自助・共助・公助				講義
5	現代に至る児童福祉の歴史を知り、世界およびわが国においてどのような実践が行われてきたのかを学び、その実践が現在の子ども家庭福祉にどのように関連しているのかを知る <キーワード> 児童の世紀、児童権利宣言、岡山孤児院				講義
6	児童福祉法をはじめとする児童福祉六法を中心に、子ども家庭福祉に関連する法律の概要について学ぶ <キーワード> 児童福祉法、児童虐待防止法、障害者基本法				講義
7	子ども家庭福祉の実施体制を理解し、行政機関と関連機関、児童福祉施設がどのように連携をとりながら支援を展開しているのか学ぶ <キーワード> 児童相談所、児童委員、児童福祉施設				講義
8	子ども家庭福祉の施策を支える財政について学び、財源と使途について理解する <キーワード> 国庫補助金、児童保護措置費負担金				講義
9	子ども家庭福祉にかかわる専門職とその役割を理解し、連携を図る素養を身につける <キーワード> 児童福祉司、保育士、運営適正化委員会				講義

10	現在の母子保健の目的と趣旨を理解するために、これまでの人口動態等の歴史を振り返りながら施策の変遷と現状について学ぶ ＜キーワード＞ 死亡率の減少、健康診査と保健指導、難病対策	講義
11	児童健全育成の目的のもと、次世代育成支援の視点に基づいた事業として具体的に何が実施されているのかを学ぶ ＜キーワード＞ 児童厚生施設、児童手当、放課後児童健全育成事業	講義
12	近年、待機児童が増加していることから度々問題視されている保育制度について、その概要を理解し、今後の課題について考える ＜キーワード＞ 保育園と幼稚園、認可保育所、待機児童の現状	講義
13	社会的養護を必要とする児童への支援として、そもそも「社会的養護」とは何かを理解し、実践されている諸制度について学ぶ ＜キーワード＞ 社会的養護、里親制度、児童養護施設	講義
14	児童虐待の問題について、その定義から虐待発生の背景にある人的および社会的要因について考え、虐待予防として何が求められているのかを考える ＜キーワード＞ 虐待定義、相談件数の推移、親・環境・子どもによる虐待要因、虐待予防、DV	講義
15	子ども家庭への援助活動として、相談支援・施設ケア・地域ネットワークの視点から現代社会における支援のポイントを体系的に理解する ＜キーワード＞ エコロジカルな視点、文化的視点、施設内・外構造、地域住民参画	講義
評価法	受講態度（20％）、定期試験（80％）	
使用書	毎時間、資料を配布	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護の基本 I	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	五嶋 幹雄
授業概要	介護福祉士として資格創設の背景を通して、過去から現在にかけての介護にまつわる課題の所在理解と、介護福祉士としての責務と倫理について学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護福祉士を取り巻く環境や法制度を理解するとともに、求められている介護福祉士の役割と専門職としての倫理的姿勢を身につける</p> <p><目標> 1. 介護福祉士資格創設の社会的背景がわかる 2. 介護にまつわる課題やニーズの変遷がわかる 3. 社会福祉士及び介護福祉士法に基づく介護福祉士の法的規定と職能団体としての倫理綱領がわかる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	介護福祉士が国家資格として制定された背景を学び、現在のわが国が抱えている介護問題理解の導入を行う				講義
2	わが国の大きな課題の一つである少子高齢化の現象が介護の分野にどのような影響を及ぼしているのかを学び、今後の展望を考える				講義
3	ライフスタイルの変化や家族形態変容の影響から、これまで家族が担ってきた機能を社会全体で支える必要性が出てきており、介護を社会全体で支えるとはどういうことなのかを学習する				講義
4	虐待について、ここでは特に高齢者虐待に焦点を当てて、虐待の起こる背景や発見時の通告先等について学ぶ				講義
5	時代に応じて変化する介護ニーズを概観するとともに、過去から現在にかけてのニーズの変遷を学ぶ				講義
6	社会福祉士及び介護福祉士法に基づく介護の専門性とは何かを学ぶ				講義
7	現在、求められている介護福祉士とはどのような専門性をもった専門職かを理解する				講義
8	社会福祉士及び介護福祉士法に基づく介護福祉士の定義を学ぶ				講義

9	社会福祉士及び介護福祉士法に基づく介護福祉士の義務とは何かを学ぶ	講義
10	介護福祉士が名称独占の国家資格であることを理解し、業務独占資格との違いを学ぶ	講義
11	介護福祉士の養成制度と実際の登録状況について理解する	講義
12	専門職能団体としての日本介護福祉士会の役割とその機能を学ぶ	講義
13	日本介護福祉士会が定めている介護福祉士の倫理綱領について理解する	講義
14	利用者の尊厳の保持と自立支援の視点から介護実践における倫理を学ぶ	講義
15	総括	講義
評価法	受講態度（授業への参加姿勢等）、定期試験をふまえて総合的に評価する	
使用書	最新介護福祉士養成講座 3 『介護の基本 I』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護の基本 II	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	五嶋 幹雄
授業概要	介護の歴史を理解し、生活支援としての介護とは何か、尊厳を支える介護とは何かを学ぶ。また、ICFやリハビリテーションの視点からの介護実践のあり方を学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 「尊厳を支える介護」を生活の視点から理解し、QOLの考え方やICFの考え方も踏まえながら生活支援の意義とあり方について学ぶ</p> <p><目標> 1. 介護の成り立ちを理解する 2. 尊厳を支える介護とは何かがわかる 3. 介護職が行う生活支援とは何かがわかる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	介護の成り立ちについて歴史的経過を学ぶ				講義
2	介護の考え方の変化について学ぶ				講義
3	「生活支援」としての介護 利用者に合わせた生活支援とは何かを学ぶ				講義
4	「生活支援」としての介護 自立に向けた支援とは何かを学ぶ				講義
5	「生活支援」としての介護 介護の専門性について学び、その位置づけの変化についても概観する				講義
6	「生活支援」としての介護 介護観をもつことが専門性を高めることを学ぶ				講義
7	「生活支援」としての介護 自らの介護観について考えることができる				講義
8	介護職が行う生活支援とは何かを理解し、その意義を考える				講義

9	生活支援のうちの家事支援について、介護職が行う意義について学ぶ	講義
10	「尊厳を支える介護」とは何かを学ぶ	講義
11	QOLの考え方をもとに、尊厳を支える介護を考える	講義
12	介護におけるICFの捉え方について考える	講義
13	介護実践におけるリハビリテーションのあり方について学ぶ	講義
14	リハビリテーションと介護の連携についてその意義を理解する	講義
15	総括	講義
評価法	受講態度（授業への参加姿勢等）、定期試験をふまえて総合的に評価する	
使用書	最新介護福祉士養成講座 3 『介護の基本 I』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護の基本 III	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	村上 留美
授業概要	介護の基本的な考え方は、本人が持っている能力を十分発揮し、エンパワーメントにつなげていくことである。また介護予防に関わる専門職においては、利用者の意欲の程度とその背景を配慮したうえで積極的な働きかけを行うことが必要である。そのため、介護予防について理解し生活の場におけるリハビリテーション・レクリエーションの視点から実習にもつながる演習を中心に行う。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 自立支援の観点から個々の状態に応じた介護予防、リハビリテーション、レクリエーションの方法を理解するための学習とする</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護予防について理解できる 2. 筋肉・骨の構造と機能について理解できる 3. 身体の動かし方を理解し腰痛予防ができる 4. レクリエーション計画が立案でき、実施できる 				
回	授業概要				展開方法
1	介護予防の基礎知識を理解する				講義
2	筋肉の名称・働きについて理解する				講義
3	骨の名称・働きについて理解する				講義
4	生活リハビリテーションの目的が理解できる				講義
5	身体の動かし方を理解し、腰痛予防対策ができる				講義・演習
6	レクリエーションの必要性が理解できる				講義・演習
7	レクリエーション計画の立て方が理解できる				講義・演習
8	レクリエーション実施に向けての準備を行う				講義・演習

9	レクリエーションが実施できる	講義・演習
10	運動機能向上（転倒予防）が理解できる	講義
11	食生活改善（栄養改善）ができる	講義
12	口腔機能向上（肺炎予防・口腔体操）の方法が理解できる	講義
13	うつ予防の方法が理解できる	講義
14	ADL・IADLの向上を考えることができる	講義・演習
15	総括	講義
評価法	実技試験（30％）、小テスト（20％）、最終試験（50％）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 3 『介護の基本Ⅰ』 中央法規出版	
参考書	田中甲子 『暮らしの視点から考える介護予防』 中央法規出版	
備考	レクリエーションは実際に実施します。（実技点として評価に加える） レクリエーション以外の授業時間には毎回小テストを行うため復習すること。 講義最終日にノート提出をするためまとめておくこと。 演習やグループワークは積極的に参加すること。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護の基本 IV	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	○宮本 憲男 高橋 秀幸
授業概要	生活全体の理解を進めながら、介護を必要とする人の暮らしの実際と生活環境のあり方を考える。また、生活ニーズに対応する介護サービスについても学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> われわれの生活を構成している要素を理解し、生活の全体像をつかんだ上で、介護を必要とする人を生活の観点から捉え、生活障害から生まれるニーズには何があるのかを理解する</p> <p><目標> 1. われわれにとっての生活の構成要素がわかる 2. 高齢者や障害者の暮らしの実際を知る 3. 生活障害から生まれる生活ニーズを知る</p>				
回	授業概要				展開方法
1	私たちの生活の理解① 生活とは何かを学ぶ				講義
2	私たちの生活の理解② 生活にとって大切な要素である家庭や地域、社会について学ぶ				講義
3	私たちの生活の理解③ 生活時間、生活空間、生きがいについて学ぶ				講義
4	高齢者や障害をもった人たちの暮らしの実際① 「要介護状態」「障害をもって」生きることを支える介護とは何か考える				講義
5	高齢者や障害をもった人たちの暮らしの実際② 新たな社会課題としての高齢者介護の現在を知る				講義
6	高齢者や障害をもった人たちの暮らしの実際③ 「高齢期の人々の暮らし」を支える介護とは何か考える				講義
7	その人らしさの理解① 「その人らしさ」が育まれる背景について学ぶ				講義
8	その人らしさの理解② 「その人らしさ」とは何か、背景を含めて理解する				講義

9	生活環境の捉え方① われわれが考える「生活環境」とは何か考える	講義
10	生活環境の捉え方② 「生活環境」を整えることの重要性を学ぶ	講義
11	生活障害の理解と生活ニーズ① 「生活障害」とは何かを学び、考え方の視点を理解する	講義
12	生活障害の理解と生活ニーズ② 「生活障害」の視点からみた認知症ケアのあり方を学ぶ	講義
13	生活障害の理解と生活ニーズ③ 尊厳を支える介護とは何か、自らが考えることができる	講義
14	生活障害の理解と生活ニーズ④ ICFに基づく生活障害とは何か、また生活ニーズとは何かを考える	講義
15	総括	講義
評価法	受講態度（授業への参加姿勢等）、定期試験をふまえて総合的に評価する	
使用書	最新介護福祉士養成講座 4 『介護の基本Ⅱ』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護の基本 V	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	村上 留美
授業概要	介護サービスの歴史的背景を知り、介護サービスとは何かを考え、介護サービスの質と安全性を確保するしくみであるケアマネジメントの概略を学ぶ。そのうえで専門的能力を活用し利用者にとって効果的なサービスとは何かを学習する。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、介護サービスの内容を理解する また、多職種協働による介護を実践するために保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割を理解する</p> <p><目標> 1. 介護の歴史的背景が理解できる 2. 高齢者の居宅系サービス・入所系サービスが理解できる 3. 障がい者の居宅系サービス・入所系サービスが理解できる 4. 多職種の役割・連携が理解できる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	介護サービスの意味と特性が理解できる				講義
2	ケアマネジメントの意味としくみが理解できる				講義
3	介護サービスの歴史的変換と時代背景がわかる				講義
4	介護サービスの種類と提供の場がわかる				講義
5	居宅系サービス提供の場とその特性（高齢者）が整理できる				講義・演習
6	入所系サービスと提供の場とその特性（高齢者）が整理できる				講義・演習
7	居宅系サービス提供の場とその特性（障がい者）が整理できる				講義・演習
8	入所系サービスと提供の場とその特性（障がい者）が整理できる				講義・演習
9	多職種連携の意義と目的が理解できる				講義

10	医療職との連携・保健医療との連携が理解できる 介護支援専門員 社会福祉士 精神保健福祉士 医師 看護師 保健師 助産師 理学療法士 作業療法士	講義
11	事例を通して多職種連携のあり方を考える	講義・演習
12	地域における連携が整理できる 地域包括支援センター 福祉事務所 社会福祉協議会 民生委員・児童委員 ボランティアセンター NPO	講義
13	ボランティア、インフォーマルサービスの機能と役割が理解できる	講義
14	地域包括支援センターの機能と役割・連携、市町村・都道府県の機能と役割・連携について理解できる	講義
15	総括	講義
評価法	提出物（10％）、小テスト（10％）、最終試験（80％）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 4 『介護の基本Ⅱ』 中央法規出版	
参考書	最新介護福祉士養成講座 2 『社会の理解』 中央法規出版	
備考	高齢者の居宅系・入所系サービス・障害者の居宅系・入所系サービスの授業終了後確認テストを実施する。確認テスト終了後整理したプリントは提出とする。 前回の授業内容の確認小テストを行うため復習すること。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護の基本 VI	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	安東 由美子
授業概要	安全確保における基礎的知識を養い、演習を通してリスクマネジメントや感染対策の重要性を学び、介護従事者の健康管理、労働環境について学習していく。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。また、介護に携わる人の健康管理や安全して働ける環境について学習する</p> <p><目標> 1. 危険予知訓練を通して、事故を未然に防ぐ予知行動ができる 2. 感染予防の方法が説明できる 3. 介護従事者として健康管理の重要性を説明できる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	介護の質の向上がリスクマネジメントにつながることを学び、他の専門職を含むチームでリスクに強い環境を整える重要性を理解する				講義
2	利用者の生活を守る技術としてリスクマネジメントの視点を学ぶ				講義
3	事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみを学ぶ				講義
4	KYTトレーニングを通して、生活のなかに潜む人的エラーと環境リスクを理解する				講義
5	具体的な事故事例をもとに安全対策を考える				講義・演習
6	事例をもとに事故を未然に防ぐ予知行動を考え、実践できる				講義・演習
7	感染対策の3原則を理解し、感染発生時の対応を学ぶ				講義
8	介護施設でみられる感染症の特性やその対処方法を学ぶ				講義
9	手洗い評価機器を用いて普段の手洗い後の汚れを知るとともに、洗い残しにより介護者が媒体となるリスクを理解する				講義・演習
10	感染事例を用いて、感染管理の具体的な方策を考える				講義・演習
11	介護に携わる人の健康管理の意義と目的を理解する				講義
12	こころの健康管理に必要な知識と対策を学ぶ				講義
13	からだの健康管理に必要な知識と対策を学ぶ				講義

シラバス(授業計画)

14	介護職の健康や安全問題について、事業者の取り組むべきことを学び、法規の面からの労働安全対策と安全衛生管理体制を理解する	講義
15	介護福祉士としてどんな職場だと安心して働くことができるか考える	演習
評価法	授業態度（20％）、小テスト（20％）、定期試験（60％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 4 『介護の基本Ⅱ』 中央法規出版	
参考書	特になし	
備考	<p><受講姿勢について></p> <ul style="list-style-type: none">・積極的に発言すること・小テストや課題は丁寧に取り組むこと・提出期限は厳守すること	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
コミュニケーション技術	4単位 60時間	30	必修	1年次 通年	三宅 真奈美
授業概要	対人関係のコミュニケーションの基礎を学ぶとともに、利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際を理解する。また、事例を通して介護場面における利用者とのコミュニケーションで何が必要か考える時間を設け、学びを深めていく。また、チームにおけるコミュニケーションとは何かを学び、文書や会議を通して、必要な情報を関係者に伝達する技術を学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族とのコミュニケーション能力を身につけるための学習とする</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対人関係である利用者や家族とのコミュニケーションに必要なことは何か述べることができる 2. 事例をもとにコミュニケーションスキルを用いて実践することができる 3. 他者の考えを聴き、受け止め、共感することができる 4. チームにおけるコミュニケーションとは何か説明することができる 5. 記録の留意点を述べることができる 6. 介護を実践するための多職種連携におけるコミュニケーション能力を身につけ、介護実践と結びつけて、考えることができる 				
回	授業概要				展開方法
1	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割				講義・演習
2	あなたのコミュニケーションスタイル・自己覚知				講義・演習
3	介護福祉におけるコミュニケーションの役割				講義・演習
4	利用者を深く理解するためのコミュニケーション・他者理解				講義・演習
5	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本				講義・演習
6	利用者・家族とのコミュニケーションの実際(話を聴く技法、利用者の感情表現を察する技法(気づき、洞察力、その他))				講義・演習
7	利用者・家族とのコミュニケーションの実際(意欲を引き出す技法)				講義・演習
8	利用者・家族とのコミュニケーションの実際(納得と同意を得る技法)				講義・演習
9	利用者・家族とのコミュニケーションの実際(相談、助言、指導)				ミニテスト
10	家族間のコミュニケーション観察と意向を調整する技法				講義・演習
11	コミュニケーション障害の理解				講義・演習
12	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際(感覚機能が低下している人とのコミュニケーション)				講義・演習
13	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際(知的・精神障害のある人とのコミュニケーション)				講義・演習
14	利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際(認知症のある人とのコミュニケーション)				講義・演習
15	1～14回までの総括				講義

16	チームにおけるコミュニケーションの意義と目的	講義・演習
17	記録による情報の共有化(介護における記録の意義・目的)	講義・演習
18	記録による情報の共有化(介護における記録の種類)	講義・演習
19	記録による情報の共有化(記録の方法・留意点)	講義・演習
20	演習 記録の書き方	講義・演習
21	記録による情報の共有化(記録の管理・記録の共有化)	講義・演習
22	記録による情報の共有化(情報通信技術(IT)を活用した記録の意義、活用の留意点)	講義・演習
23	記録による情報の共有化(介護記録における個人情報保護)	講義・演習
24	記録による情報の共有化(記録の活用・その他)	講義・演習
25	報告(報告の意義、目的、留意事項、その他)	講義・演習
26	報告、連絡、相談の方法と留意点	講義・演習
27	会議の意義と目的、種類	講義・演習
28	会議の方法、留意点	講義・演習
29	演習 会議(サービス担当者会議、ケアカンファレンス)	講義・演習
30	総括	講義
評価法	定期試験(50%)、ミニテスト(20%)、レポート(10%)、演習点(10%)、受講態度など(10%)	
使用書	最新介護福祉士養成講座 5 『コミュニケーション技術』 中央法規出版	
参考書	プリントなどの資料も随時配布	
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
生活支援技術 I	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	五嶋 幹雄
授業概要	生活支援、特に自立に向けた居住環境の整備を中心に理解を進め、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な自立支援とは何かを学ぶ。				
授業の 目的・目標	<目的> 居住環境を整備することにより、日常生活が安全に送れるよう支援できる技術や知識の習得を目指す <目標> 1. 生活支援の考え方がわかる 2. 福祉用具を活用した生活支援とは何かが理解できる 3. 福祉的視点からみた住宅問題について理解できる				
回	授業概要				展開方法
1	生活支援とは何か① 生活を理解し、そこに携わる介護職としてのあり方を学ぶ				講義
2	生活支援とは何か② 生活支援の考え方を理解し、介護職として実践に移せる力を養う				講義
3	生活支援とリハビリテーション リハビリテーションの視点から日常生活の再構築と活性化を考える				講義
4	生活支援と福祉用具の活用① 生活支援の中で福祉用具をどのように活用するのか学ぶ				講義
5	生活支援と福祉用具の活用② 福祉用具を活用する際の視点として、利用者・介護者・環境との適合を考える				講義
6	生活支援と介護予防① 介護予防とは何かを知り、介護保険制度上の位置づけについても学ぶ				講義
7	生活支援と介護予防② 生活における介護予防の視点として、レクリエーション活動等を参考に考える				講義
8	居住環境の整備① 居住環境を整える意義を理解し、生活空間を活用した介護のあり方を考える				講義
9	居住環境の整備② 居住環境のアセスメントの視点を学ぶ				講義

シラバス(授業計画)

10	バリアフリーデザインとは何かを学ぶ	講義
11	ユニバーサルデザインとは何かを学ぶ	講義
12	ICFにおける居住環境の役割とは何か理解する	講義
13	福祉の視点から捉えた住宅問題について理解する	講義
14	介護福祉士が生活環境の整備を行うことの意義について考える	講義
15	総括	講義
評価法	受講態度（授業への参加姿勢等）、定期試験をふまえて総合的に評価する	
使用書	最新介護福祉士養成講座 6 『生活支援技術 I』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
生活支援技術 II	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	村上 留美
授業概要	介護を必要とする高齢者や障がいのある人が安心して生活できる環境を整備するための睡眠環境及び安全な食事介助の方法を学ぶ。				
授業の 目的・目標	<目的> 利用者にとって安心できる環境とは何かを理解するとともに、食事・睡眠についての基本的知識、技術を身につける <目標> 1. ベッドメイキングができる 2. 利用者の状態に応じた安全な食事介助ができる 3. 安眠を図るための援助方法ができる				
回	授業概要				展開方法
1	住まいの場における工夫と留意点				講義
2	集団生活の場における工夫と留意点				講義
3	寝具がたためる。三角コーナーが確実にできる				講義・演習
4	ベッドメイキングができる				講義・演習
5	利用者が臥床した状態でシーツ交換ができる				講義・演習
6	食事の意義と目的が理解できる				講義
7	誤嚥・窒息の防止ができる ①気管と食道の位置関係－息苦しさを体験 ②注意したい食品や料理－実際摂取してみる ③食事の姿勢				講義・演習
8	食事の介護ができる 事例を通してグループで考える				講義・演習
9	食事の介護ができる 事例の利用者の食事介助を行う				講義・演習

10	脱水予防 ①脱水の原因 ②脱水の見つけ方 ③脱水予防の実際	講義
11	食事に関する多職種の役割と協働・連携の必要性を理解する	講義
12	睡眠の意義と目的が理解できる ①睡眠の効果 ②睡眠のメカニズム ③睡眠障害	講義
13	睡眠の介助における状態別介助の視点を考える 安楽な姿勢の体験	講義・演習
14	睡眠に関する多職種の役割と協働・連携について理解できる	講義
15	総括	講義
評価法	実技試験（30％）、最終試験（70％）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 6 『生活支援技術Ⅰ』 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 7 『生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版	
参考書	滝波順子 田中義行 『介護が困難な人への介護技術』 中央法規出版	
備考	毎回演習がありますので授業開始までに実習着を着用し、身だしなみを整えてください。実習着を忘れた場合演習には参加できません。 授業時間を有効に活用するために物品の準備、片付けはグループメンバーで協力して行ってください。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
生活支援技術 III	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	○安東 由美子 宮本 義継
授業概要	身じたくにおける実践の根拠について説明できる知識を学び、自立に向けた身じたくの介護技術の基本を演習を通して習得していく。				
授業の 目的・目標	<目的> 尊厳の保持や自立新、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた身じたくにおける介護実践を行うための知識・技術を習得する。 <目標> 1. 根拠に基づいた支援が説明できる 2. 自立に向けた身じたくの介護技術の基本を実施することができる 3. 事例を通して、対象者に合わせた介護技術を考えることができる				
回	授業概要				展開方法
1	身じたくの意義と目的を学ぶ				講義
2	整容の目的や種類を学ぶ				講義
3	洗面、整髪、ひげの手入れ、化粧、爪の手入れの基本技術やその根拠と留意点を学ぶ				講義
4	入れ歯、スポンジブラシ、歯ブラシの基本技術やその根拠と留意点を学ぶ				講義
5・6	根拠に基づいた整容の基本技術を実施する				演習
7	衣服の着脱における目的や選択の基準を学ぶ				講義
8	衣服の着脱の基本技術やその根拠と留意点を学ぶ				講義
9・10	根拠に基づいた衣服の基本技術を実施する				演習
11	事例を用いて、対象にあった根拠に基づく整容の介護技術を考え、実施する				演習

12	事例を用いて、対象にあつて根拠に基づく口腔ケアの介護技術を考え、実施する	演習
13	事例を用いて、対象にあつた根拠に基づく衣服の介護技術を考え、実施する	演習
14	身じたくの介護における他職種の役割と協働を理解する	講義
15	事例を通して、他職種との協働を考える	演習
評価法	授業態度、課題・小テスト、定期試験を総合して評価する。	
使用書	最新介護福祉士養成講座 7 『生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版	
参考書	特になし	
備考	<受講姿勢について> ・積極的に発言すること ・小テストや課題は丁寧に取り組むこと ・提出期限は厳守すること	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
生活支援技術 IV	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	村上 留美
授業概要	利用者に応じた汎用性のある適切な移動介護を提供することができるよう基礎的技術を学ぶ。加えて利用者の生活環境にも配慮した、安全で安楽な移動の支援技術が提供できるよう、自立支援を目指した福祉用具の選択・活用についても学習する。また、演習を通して介護現場で起こりうる緊急時に対応できるように授業を展開する。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 利用者に応じた介護技術が実施できるように、基礎的援助技術（移乗・移動・急変時の介護）が実施できる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立に向けた移動介護の意義と目的を理解し、説明することができる 2. 移動介護において、ICFの視点に基づいたアセスメントをすることができる 3. 自立に向けた基本的な移動の支援技術を実施することができる 4. ボディメカニクスを活用した安楽な体位を保持する介助が実施することができる 5. 緊急時の対応ができる 				
回	授業概要				展開方法
1	移動の意義と目的が理解できる 移動支援についてICFの視点によるアセスメントができる				講義
2	長期臥床による影響を考慮することができる ①廃用症候群 ②褥瘡予防				講義・演習
3	ボディメカニクスを活用したベッド上での移動支援ができる ①上方・下方移動②水平移動③体位変換④安楽な体位の工夫				講義・演習
4	自立度に応じた起き上がりの支援技術ができる ①臥位から端坐位 ②福祉用具を活用しての起き上がり				講義・演習
5	座位から立位への支援技術ができる ①端座位から立位 ②立位から端坐位 ③床からの立ち上がり				講義・演習
6	車いすの移動支援ができる ①車いすの各機能の特徴と基本構造、点検 ②車いすの移動介助				講義・演習
7	車いすとベッド間の移動介助ができる ①一部介助の場合 ②全介助の場合				講義・演習
8	移動の支援技術ができる *事例問題を分析して実技試験の実施				実技試験

9	歩行の支援ができる ①歩行補助具の種類と留意点 ②杖歩行の介助	講義・演習
10	歩行の支援ができる ①事例に応じて座位から立位そして歩行介助を考える	講義・演習
11	想定される事故と予防の視点をグループワークを通して学ぶ	講義・演習
12	緊急時における連携を理解できる	講義
13	緊急時対応の知識と技術－外傷における処置ができる	講義・演習
14	緊急時対応の知識と技術－誤嚥における処置ができる	講義・演習
15	総括	講義
評価法	実技試験（30％）、最終試験（70％）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 6 『生活支援技術 I』 中央法規出版	
参考書	滝波順子 田中義行 『介護が困難な人への介護技術』 中央法規出版	
備考	毎回演習がありますので授業開始までに実習着を着用し、身だしなみを整えてください。実習着を忘れた場合演習には参加できません。 授業時間を有効に活用するために物品の準備、片付けはグループメンバーで協力して行ってください。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
生活支援技術 V	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	三宅 真奈美
授業概要	生活支援技術Vでは、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護について学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、「生活支援」を学び、居住環境を整備することにより日常生活が安全に送れるよう援助できる技術や知識について習得する学習とする</p> <p><目標> 1. 入浴、清潔保持、排泄の基本的な介護技術が習得できる 2. 介護するうえでの観察ポイントの理解を深めることができる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	入浴・清潔保持の意義と目的－ 自立に向けた入浴・清潔保持の介護とアセスメント、実習現場での入浴介護の共有化				講義
2	入浴清潔保持における介護技術－ 入浴の介助に関連する移動(移乗) 介助について				演習
3	入浴における介護技術 (入浴介助)				演習
4	清潔保持における介護技術 (清拭)				演習
5	清潔保持における介護技術 (部分浴)				演習
6	入浴・清潔保持の介護 他職種の役割と協働・連携				講義
7	排泄の意義と目的－ 自立に向けた排泄介護とアセスメント				講義
8	排泄の介護－排泄における介護技術－ 排泄の介助、排泄の介護に関連した着脱介助について				演習
9	排泄における介護技術 (ポータブルトイレ)				演習

シラバス(授業計画)

10	排泄における介護技術（陰部清拭）	演習ミニテスト （実技）
11	排泄における介護技術（採尿器-差込便器、パッドの位置）	演習
12	排泄における介護技術（おむつ交換の基本ポイント）	演習
13	排泄における介護技術（おむつ交換、事例）	演習
14	排泄の介護－排泄における介護技術－ 浣腸、座薬挿入、頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応導尿器の使い方	講義
15	総括 排泄介護の他職種の役割と協働・連携について	講義・演習
評価法	定期試験（60％）、ミニテスト（20％）、演習点（10％）、受講態度・課題提出など（10％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 7 『生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版 介護福祉用語辞典 中央法規出版	
参考書	プリントなどの資料も随時配布	
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
生活支援技術 VI	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	○村上 留美 吉井 敦子
授業概要	終末期にある利用者が、その人らしい尊厳ある最期を迎えるため、一人の尊い人間として尊重され、見守ることも含めた適切な介護技術により安全・安楽な援助技術の方法や知識を習得するための学習とする。				
授業の 目的・目標	<目的> 終末期にある人と家族をケアするために必要な知識・技術を習得する <目標> 1. 終末期の概念及び終末期ケアの考え方を説明できる 2. 終末期における介護の役割を説明できる 3. 終末期における介護の要点、留意点を説明できる 4. リラックス効果を期待した援助方法が実践できる 5. 専門職としての学びを元に自己の死生観について述べるができる				
回	授業概要				展開方法
1	統計的側面（死亡場所・文化・多死社会等）から死について考えることができる				講義
2	生きること（命）について考えることができる				講義・演習
3	終末期の身体的変化が理解できる				講義
4	看取り期における介護職としての観察ができ援助する内容が理解できる				講義
5	死にゆく人へのケア①				講義
6	アロマセラピーの実践				講義・演習
7	死にゆく人へのケア②				講義
8	ハンドマッサージができるようになる				講義・演習
9	死にゆく人へのケア③				講義
10	フットマッサージができるようになる				講義・演習
11	事例からあるべき終末期の像を考えることができる				講義・演習
12	エンゼルケアが実践できる				講義・演習

13	グリーフケアの必要性や方法を考えることができる	講義・演習
14	自己の死生観についてまとめることができる	講義
15	総括	講義
評価法	提出物（20%）、最終試験（80%）	
使用書	新介護福祉士養成講座 7 『生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版	
参考書	内田 富美江・岡本 綾 『「死にゆく人」へのケア』 筒井書房	
備考	終末期の支援技術は授業だけで学習できるというものではありません。様々な書物を読み、他者の意見を聞き、生きることや死を迎えることを自分なりに考えてください。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
生活支援技術 VII	4単位 60時間	30	必修	1年次 前期	仁熊 久仁子
授業概要	自立に向けた家事の介護のうち、衣生活と住生活に関する技能を演習を通して習得し、高齢者および障害者への家庭生活支援能力を養う。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力の引き出しや見守りも含めた支援技術を用いて日常生活を安全に過ごせるよう援助できる知識や技術を習得する</p> <p><目標> 1. 健康的な生活や文化的な生活を営むうえでの被服の役割・管理について理解できる 2. 家事支援のアセスメントの視点と技術を習得できる</p>				
回	授業概要				展開方法
1・2	被服生活の基本的知識と管理および高齢者・障害者にとっての着やすく心地よい被服を学ぶ ①被服の機能を学ぶ ②被服を取り巻く時代的変化学ぶ ③被服の素材について学ぶ ④高齢者の被服における工夫を学ぶ ⑤高齢者・障害者のある人の寝衣と寝具について学ぶ				講義
3・4	被服製作の基礎演習① 1) 実習着の裾直し				講義・演習
5・6	被服製作の基礎演習② 1) 手縫いの基礎…波縫い				演習
7・8	被服製作の基礎演習③ 1) 手縫いの基礎…本返し縫い				演習
9・10	被服製作の基礎演習④ 1) 手縫いの基礎…ボタンつけ				演習
11・12	被服製作の応用演習 1) 高齢者とできるお手玉				講義・演習
13・14	家庭生活の基礎および被服の基礎理論 1) 洗濯の留意点				講義・演習
15・16	被服管理演習 1) アイロンのかけ方 2) 和服のたたみ方				講義・演習
17・18	高齢者・障害者用着衣の製作演習① 1) エプロン作成①				講義・演習
19・20	高齢者・障害者用着衣の製作演習② 1) エプロン作成②				演習
21・22	高齢者・障害者用着衣の製作演習③ 1) ベスト製作①				演習

23・24	高齢者・障害者用着衣の製作演習④ 1) ベスト製作②	演習
25・26	高齢者・障害者用の小物製作	講義・演習
27・28	高齢者・障害者を考慮した住居のあり方を学ぶ(居住設計) ①高齢者や障害者の住まいの多様性を理解できる ②居住環境整備におけるアセスメントの視点がわかる	講義
29・30	高齢者・障害者を考慮した住居のあり方を学ぶ(住宅改善) ①安心・快適な室内環境の確保について理解できる ②利用者の「これまでの暮らし」を継続させるための視点、整備環境の工夫が理解できる	講義
評価法	受講態度(20%)、課題(10%)、演習(20%)、定期試験(50%)	
使用書	最新介護福祉士養成講座 6 『生活支援技術 I』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
生活支援技術 VIII	4単位 60時間	30	必修	1年次 後期	仁熊 久仁子
授業概要	自立に向けた家事の介護のうち、栄養と調理に関する技能を演習を通して習得し、高齢者および障害者への実践的支援能力を養う。				
授業の 目的・目標	<目的> 対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力の引き出しや見守りも含めた支援技術を用いて日常生活を安全に過ごせるよう援助できる知識や技術を習得する <目標> 1. 介護福祉士としての調理支援の必要性について理解できる 2. 家事支援のアセスメントの視点と技術を習得できる				
回	授業概要				展開方法
1・2	栄養と調理 ①五大栄養素を理解できる ②各栄養素の働きを理解できる				講義
3・4	食事摂取基準 ①「食べる」という行動への老化現象が理解できる ②高齢者の食事摂取基準と食事の要点がわかる				講義
5・6	栄養価の計算 ①食事に含まれる栄養価の計算ができる				講義
7・8	食品構成 ①各栄養素を含む食品が何かわかる				講義
9・10	献立作成 ①献立作成の手順が理解できる ②献立作成の留意点が理解できる				講義
11・12	食品の購入 ①食品購入の留意点が理解できる ②食品規格と表示が理解できる				講義
13・14	調理の手法 ①調理準備の留意点が理解できる ②食品ごとの調理の仕方の違いがわかる				講義
15・16	高齢者と障害者の食事 ①食品・調理・味付け等による高齢者への配慮が理解できる ②障害別の食事への配慮や調理形態等への配慮について理解できる				講義
17・18	高齢者の食事① 1) 季節の行事食				演習
19・20	高齢者の食事② 1) 乾物				演習
21・22	高齢者の食事③ 1) 缶物				演習

シラバス(授業計画)

23・24	高齢者の食事④ 1) 嚥下に配慮したソフト食	演習
25・26	高齢者の食事⑤ 1) 生活習慣病に配慮した食事	演習
27・28	障害者の食事 1) 障害に配慮した食事	講義・演習
29・30	生活習慣病の食事 1) おやつ作り	講義・演習
評価法	受講態度 (20%)、課題 (10%)、定期試験 (70%)	
使用書	最新介護福祉士養成講座 6 『生活支援技術 I』 中央法規出版	
参考書	介護福祉士用語辞典 (中央法規出版)、資料を適宜配布	
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護過程 I	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	椿 大輔
授業概要	他科目で学習した内容を統合し、利用者の自立支援を目的とした個別支援計画を作成するための基礎的内容を身につける。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護過程の展開の基本である、アセスメント、計画の立案、実施、評価の内容を理解するとともに、それぞれの留意点を理解する</p> <p><目標> 1. 介護過程の意義を理解する 2. 介護過程の展開を基礎的コミュニケーション技法がわかる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	客観的で科学的思考を必要とする介護過程とは何かを学び、目的を理解する <キーワード> 個別ケア、多職種協働・連携				講義
2	介護過程の展開のプロセスを学び、根拠に基づいた介護計画を考えるとどのようなことか理解する <キーワード> 4つのプロセス、ICFに基づく利用者像の把握				講義
3	具体的な介護場面を事例を通して介護過程の展開をイメージすることで、生活支援における介護過程の必要性を理解する <キーワード> 科学的な思考過程、問題解決思考、記録				講義
4	介護過程におけるアセスメントとは何かを学習する <キーワード> 情報の収集、観察力				講義
5	アセスメントにおける情報の解釈・関連づけ・統合化とは何かを学習する <キーワード> Aに起因するB				講義
6	アセスメントにおける課題の明確化について学習する <キーワード> 生活課題、マズローの欲求階層説				講義
7	介護過程における計画の立案とは何かを学び、目標設定の意味を学習する <キーワード> 標準化と個別化、ケアプランとの連動、長期目標と短期目標				講義
8	具体的な支援内容と支援方法を設定するにあたっての留意事項を学ぶ <キーワード> 5W1H、計画の一貫性、一文一義				講義
9・11	アセスメントと計画の立案について学んだことを活用して、事例をもとに実際に介護計画の作成を行う				演習

11	介護過程における実施とは何かを学び、実施上の留意点を理解する <キーワード> インフォームドコンセント、自立支援、安全と安心	講義
12	実施上の記録をとる目的を理解し、何を記録したらいいのかを学ぶ <キーワード> 支援経過記録、5W1H	講義
13	介護過程における評価とは何かを学び、評価の視点と留意事項を理解する <キーワード> 目標に基づく評価、評価基準の明確化	講義
14	ケアマネジメントとは何かを学び、介護過程との関係性を学ぶ <キーワード> ケアプラン、社会資源、フォーマル・インフォーマルサービス	講義
15	介護実践におけるチームアプローチの必要性を理解し、そのなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する <キーワード> チームアプローチ、専門職としての視点	講義
評価法	受講態度 (20%)、定期試験 (80%)	
使用書	最新介護福祉士養成講座 9 『介護過程』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護過程 II	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	椿 大輔
授業概要	他科目で学習した内容を統合し、利用者の自立支援を目的とした個別支援計画を作成するために利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開を事例を通して身につける。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護過程の実践事例を通して、アセスメントおよび介護過程の展開をどのように行うのか体験を通して理解する</p> <p><目標> 1. 事例を通してアセスメントができる 2. 事例を通して介護過程を展開することができる</p>				
回	授業概要				展開方法
1・2	アセスメントの実際として、事例から情報収集および課題の明確化を行う <事例> 在宅生活を希望する利用者				講義・演習
3・4	アセスメントの実際として、事例から情報収集および課題の明確化を行う <事例> 介護老人福祉施設でターミナルを迎える利用者				講義・演習
5・6	アセスメントの実際として、事例から情報収集および課題の明確化を行う <事例> グループホームで生活している利用者				講義・演習
7	アセスメントの確認として、演習課題に取り組み自らの到達状況を把握する				講義・演習
8・9	介護過程の展開の思考過程を迫体験することを目的に、情報収集後の課題の明確化から計画の立案を事例を通して実際に行う <事例> 介護老人保健施設で生活する利用者				講義・演習
10・11	介護過程の展開の思考過程を迫体験することを目的に、情報収集後の課題の明確化から計画の立案を事例を通して実際に行う <事例> 障害者支援施設で生活する利用者				講義・演習
12・13	介護過程の展開の思考過程を迫体験することを目的に、情報収集後の課題の明確化から計画の立案を事例を通して実際に行う <事例> 役割をもって家族と生活する利用者				講義・演習
14・15	介護過程の展開の確認として、演習課題に取り組み自らの到達状況を把握する				講義・演習
評価法	受講態度 (20%)、提出課題 (80%)				
使用書	最新介護福祉士養成講座 9 『介護過程』 中央法規出版				
参考書					
備考					

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護過程 Ⅲ	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	村上 留美
授業概要	他科目で学習した内容を統合し、利用者の自立支援を目的とした個別支援を展開するためのチームアプローチの意義を理解し、利用者の状態に合わせた介護過程の展開を学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 個別支援におけるチームアプローチの意義を知り、個別支援計画に他職種をの専門性を尊重した介護支援計画を作成する力を身につける</p> <p><目標> 1. ケアマネジメントの理念と目的を理解できる 2. チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性が理解できる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	ケアマネジメントの全体像 ①ケアマネジメントの定義 ②ケアマネジメントの流れ				講義
2	個別援助計画とケアプランの関係 ①ケアマネジメントと介護過程 ②ケアプランと個別援助計画				講義
3	チームアプローチの意義 ①チームにおける介護福祉士の役割 ②専門職の視点				講義
4	チームアプローチの実際				講義
5	介護福祉士の仕事の魅力				講義
6	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開				講義
7	個別援助計画書とは何かを理解する				講義
8	自己の個別援助計画書の書き方の振り返ることができる① ・アセスメント、分析				講義
9	自己の個別援助計画書の書き方の振り返ることができる② ・計画				講義

10	利用者の生活と介護過程の展開 内部障害	講義
11	利用者の生活と介護過程の展開 聴覚障害	講義
12	利用者の生活と介護過程の展開 視覚障害	講義
13	利用者の生活と介護過程の展開 言語障害	講義
14	利用者の生活と介護過程の展開 重複障害	講義
15	総括	講義
評価法	受講態度（20％）、提出課題（80％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 9 『介護過程』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護過程 IV	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	椿 大輔
授業概要	介護福祉士にとってなぜ研究的視点が必要なのかを学ぶとともに、介護実習で実践した支援内容をケーススタディとしてまとめる方法と意義について学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> ケーススタディを作成する意義を理解するとともに、介護過程の展開方法を振り返り、実習現場で介護計画が立案できる力を身につける</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士にとっての研究の意義がわかる 2. ケーススタディの進め方が理解できる 3. 介護過程の展開を振り返り、介護計画の立案を行うことができる 				
回	授業概要				展開方法
1	介護現場に研究的視点が求められている意味を理解し、介護福祉士として研究に取り組む意義を学ぶ				講義
2	研究の手法として質的研究と量的研究を理解し、質的研究であるケーススタディをどのように進めていくのかを学ぶ				講義
3	研究を行うにあたっての倫理的配慮や事前準備、研究に取り組む姿勢について学ぶ				講義
4	介護過程の振り返り① アセスメントの進め方を情報収集を行う視点を中心に振り返る				講義
5・6	介護過程の振り返り②③ アセスメントの進め方を情報の解釈・統合化を振り返り、事例から情報の解釈を行う				講義
7	介護過程の振り返り④ 計画の立案について、目標設定の仕方を中心に振り返る				講義
8・9	介護過程の振り返り⑤⑥ 計画の立案について、具体的な支援内容・方法を振り返り、事例から支援内容を立案する				講義
10	介護過程の振り返り⑦ 計画の実施について、実施上の留意事項を中心に振り返る				講義
11	介護過程の振り返り⑧ 実施の評価について、評価をする際の留意事項を中心に振り返る				講義

12	具体的な作成事例として、卒業生のケーススタディを参考にケーススタディのイメージを掴む ＜対象卒業年次＞ 3期生	講義
13	具体的な作成事例として、卒業生のケーススタディを参考にケーススタディのイメージを掴む ＜対象卒業年次＞ 2期生	講義
14	具体的な作成事例として、卒業生のケーススタディを参考にケーススタディのイメージを掴む ＜対象卒業年次＞ 1期生	講義
15	ケーススタディの全体像を振り返り、介護実習Ⅳに向けての事前準備を行う	講義
評価法	受講態度（20％）、提出課題（80％）	
使用書	和田 要・大嶋 美登子・江原 勝幸 『ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き』 日総研	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護過程 V	2単位 30時間	15	必修	2年次 後期	椿 大輔
授業概要	介護福祉士にとっての研究的視点の必要性を自覚し、介護実習Ⅳで行なった実践をケーススタディとしてまとめることおよび発表することを通して、専門職としての自覚を深める。				
授業の 目的・目標	<目的> ケーススタディを作成し発表することで、自身のみならず他者の介護観にも触れることを通して専門性を深める <目標> 1. ケーススタディを作成することができる 2. ケーススタディを発表し、自身および他者の介護観を知ることができる 3. 発表したケーススタディの修正を通して自身の課題を客観的に知ることができる				
回	授業概要				展開方法
1・2	介護実習Ⅳを振り返り、自らが立案および実施した支援計画の内容を振り返りシートに記入する				講義・演習
3	指示された様式にそって実際にケーススタディを作成する① 指導担当教員（実習巡回教員）に内容の確認を行い、修正も行う				講義・演習
4	指示された様式にそって実際にケーススタディを作成する② 指導担当教員（実習巡回教員）に内容の確認を行い、修正も行う				講義・演習
5	指示された様式にそって実際にケーススタディを作成する③ 指導担当教員（実習巡回教員）に内容の確認を行い、修正も行う				講義・演習
6	指示された様式にそって実際にケーススタディを作成する④ 指導担当教員（実習巡回教員）に内容の確認を行い、修正も行う				講義・演習
7	指示された様式にそって実際にケーススタディを作成する⑤ 指導担当教員（実習巡回教員）に内容の確認を行い、修正も行う				講義・演習
8	指示された様式にそって実際にケーススタディを作成する⑥ 指導担当教員（実習巡回教員）に内容の確認を行い、修正も行う				講義・演習
9	指示された様式にそって実際にケーススタディを作成する⑦ 指導担当教員（実習巡回教員）に内容の確認・修正を行い、作成が終わった学生は発表に向けた個人練習を行う				講義・演習
10	指示された様式にそって実際にケーススタディを作成する⑧ 指導担当教員（実習巡回教員）に内容の確認・修正を行い、作成が終わった学生は発表に向けた個人練習を行う				講義・演習

11	ケーススタディの発表に向けての全体準備を行う 発表時の服装や発表姿勢、聴講姿勢等を確認し、最終的な準備を進める	講義・演習
12	ケーススタディ発表会	発表会
13	発表したケーススタディについて聴講者からのコメントや指摘をもとに修正し、客観的に自身を振り返り、今後の課題を明確にしていく	講義・演習
14	発表したケーススタディについて聴講者からのコメントや指摘をもとに修正し、客観的に自身を振り返り、今後の課題を明確にしていく	講義・演習
15	発表したケーススタディについて聴講者からのコメントや指摘をもとに修正を行う。その際、客観的に自身を振り返り、今後の課題を明確にしていく。	講義・演習
評価法	受講態度（20％）、ケーススタディ（内容、発表態度を含み80％）	
使用書	和田 要・大嶋 美登子・江原 勝幸 『ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き』 日総研	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護総合演習 I	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	○村上 留美 椿 大輔 安東 由美子 宮本 義継
授業概要	介護総合演習 I は介護実習 I と連携した学習とし、実習目的の確認から実習記録記入方法、実習の振り返りまでを行う。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 実習に必要な事前知識や実習生としての姿勢を身につけ、個別の学習状況に応じた総合的な学習を行う</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての姿勢を身につける 2. 実習を行うにあたって必要な事前準備ができる 3. 実習の振り返りを通して自身の反省点および改善点を知ることができる 				
回	授業概要				展開方法
1	介護実習 I の意義と目的を理解することができる				講義
2	介護実習 I の進め方を理解することができる				講義
3	実習施設の概要を理解することができる <実習施設種別> グループホーム、デイサービスセンター、小規模多機能型介護施設				講義
4	実習施設の利用者の特徴を理解することができる <実習施設> グループホーム				講義
5	実習施設の利用者の特徴を理解することができる <実習施設> デイサービスセンター、小規模多機能型介護施設				講義
6	記録の必要性と実習記録記入方法がわかる				講義
7	記録の必要性と実習記録記入方法がわかる				演習
8	実習課題を明確にし、実習個人票を作成することができる				講義
9	実習個人票を作成するとともに、実習施設の施設概要をまとめる				演習

10	実習施設の概要をまとめる	演習
11	実習前オリエンテーション 巡回指導教員から実習前の施設ごとのオリエンテーション、感染予防と対策についても最終確認を行う	講義
12・13	実習まとめ 実習終了後の振り返りを行い、実習自己評価および自身の反省点をまとめる	講義・演習
14	実習報告会準備 まとめた自身の反省点や今後の課題について発表報告できるよう準備を行う	演習
15	実習報告会	発表会
評価法	受講態度（授業への参加姿勢等）、報告内容をふまえて総合的に評価する	
使用書	最新介護福祉士養成講座 10 『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護総合演習 II	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	○村上 留美 樺 大輔 安東 由美子 宮本 義継
授業概要	介護総合演習IIは介護実習IIと連携した学習とし、自己課題の設定から到達状況の把握に重点を置いて学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 実習に必要な事前知識の修得や実習生としての姿勢を引き続き意識し、帰校日での中間の振り返りを通して、個別の学習到達状況を把握し、達成を目指す</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての姿勢を身につける 2. 実習を行うにあたって必要な事前準備ができる 3. 帰校日の振り返りをその後の実習に活かすことができる 				
回	授業概要				展開方法
1	介護実習IIの意義と目的を理解することができる				講義
2	実習施設の概要を理解することができる <実習施設種別> 障害者支援施設、介護老人保健施設				講義
3	実習施設の概要を理解することができる <実習施設種別> 特別養護老人ホーム				講義
4	実習施設の利用者の特徴を理解することができる <実習施設> 障害者支援施設、介護老人保健施設				講義
5	実習施設の利用者の特徴を理解することができる <実習施設> 特別養護老人ホーム				講義
6	自身の実習課題を明確にし実習個人票を作成する				演習
7	実習個人票を作成するとともに、実習施設の施設概要をまとめる				演習
8	実習施設の概要をまとめる				演習
9	実習前オリエンテーション 巡回指導教員から実習前の施設ごとのオリエンテーション、感染予防と対策についても最終確認を行う				講義

10・11	実習帰校日 個別の実習到達状況を確認し、後半の実習に向けて個別目標を設定することができる	演習
12・13	実習まとめ 実習終了後の振り返りを行い、実習自己評価および自身の反省点をまとめる	講義・演習
14	実習報告会準備 まとめた自身の反省点や今後の課題について発表報告できるよう準備を行う	演習
15	実習報告会	発表会
評価法	受講態度（授業への参加姿勢等）、報告内容をふまえて総合的に評価する	
使用書	最新介護福祉士養成講座 10 『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護総合演習Ⅲ	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	○椿 大輔 村上 留美 安東 由美子 宮本 義継
授業概要	介護総合演習Ⅲは介護実習Ⅲと連携した学習とし、介護過程の第一段階である情報収集のあり方から、利用者の尊厳、自立支援を念頭においた個別ケアを行うための介護計画立案の準備と振り返りを行う。				
授業の 目的・目標	<目的> 実習に必要な知識と技術、介護過程の展開能力について、個別の学習到達状況を把握し、達成を目指す <目標> 1. 実習生としての姿勢を身につける 2. 介護過程の展開（立案まで）ができる 3. 実習後の振り返りを通して介護計画の修正ができる				
回	授業概要				展開方法
1	介護実習Ⅲの意義と目的を理解することができる				講義
2	実習施設の概要を理解することができる <実習施設種別> 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設				講義
3	自身の実習課題を明確にし実習個人票を作成する				演習
4	実習個人票を作成するとともに、実習施設の施設概要をまとめる				演習
5	実習施設の概要をまとめる				講義
6	介護過程の振り返り 介護過程の基盤であるアセスメントの留意点を振り返る				講義
7	介護過程の振り返り 介護計画の立案について留意点を振り返る				講義
8	介護計画の振り返り 介護計画の書き方について振り返る				講義
9	実習前オリエンテーション 巡回指導教員から実習前の施設ごとのオリエンテーション、感染予防と対策についても最終確認を行う				講義

シラバス(授業計画)

10	実習まとめ 実習終了後の振り返りを行い、実習自己評価および自身の反省点をまとめる	講義・演習
11・12	実習まとめ 実習終了後の振り返りを行い、自身の反省点をまとめる	演習
13	実習報告会準備 まとめた自身の反省点や今後の課題について発表報告できるよう準備を行う	演習
14	実習報告会	発表会
15	振り返りおよび今後の課題 報告会でのコメントを活用して自身の介護計画を修正し、今後の課題を明確にする	演習
評価法	受講態度（授業への参加姿勢等）、報告内容をふまえて総合的に評価する	
使用書	新介護福祉士養成講座 10 『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護総合演習 IV	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	○椿 大輔 村上 留美 安東 由美子 宮本 義継
授業概要	介護総合演習IVは介護実習IVと連携した学習とし、実習の計画から評価までの準備と振り返りを行い、介護実習の総合的到達度を高める。				
授業の 目的・目標	<目的> 実習に必要な知識と技術、介護過程の展開能力について、個別の学習到達状況を把握し、達成を目指す <目標> 1. 実習生としての姿勢を身につける 2. 介護過程の展開ができる 3. 実習後の振り返りを通して介護計画の修正ができる				
回	授業概要				展開方法
1	介護実習Ⅲの意義と目的を理解することができる				講義
2	実習施設の概要を理解することができる <実習施設種別> 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設				講義
3	自身の実習課題を明確にし実習個人票を作成する				演習
4	実習個人票を作成するとともに、実習施設の施設概要をまとめる				演習
5	実習施設の概要をまとめる				演習
6	介護過程の振り返り 介護過程の基盤であるアセスメント、立案の留意点を振り返る				講義
7	介護過程の振り返り 介護計画の実施と評価について留意点を振り返る				講義
8	実習前オリエンテーション 巡回指導教員から実習前の施設ごとのオリエンテーション、感染予防と対策についても最終確認を行う				講義
9・10	実習帰校日 個別の実習到達状況を確認し、後半の実習に向けて個別目標を設定することができる				講義

11	実習まとめ 実習終了後の振り返りを行い、実習自己評価および自身の反省点をまとめる	講義・演習
12	実習報告会準備 まとめた自身の反省点や今後の課題について発表報告できるよう準備を行う	演習
13	実習報告会	発表会
14・15	振り返りおよび今後の課題 報告会でのコメントを活用して自身の介護計画を修正し、今後の課題を明確にする	演習
評価法	受講態度（授業への参加姿勢等）、報告内容をふまえて総合的に評価する	
使用書	新介護福祉士養成講座 10 『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護実習 I	2単位 80時間		必修	1年次 前期	○村上 留美 樺 大輔 安東 由美子 宮本 義継
実習概要	介護実習 I では、比較的軽度な利用者とその家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、介護技術の実践を行うとともに、施設の介護機能、介護職員の役割について学ぶ。				
実習の 目的・目標	<p><目的></p> <p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者と積極的にコミュニケーションを行うことができる 2. 利用者の生活を理解することができる 3. 目的をもって実習に臨むことができる 				
実習展開	<p>実習時間 : 8時間 × 10日間 (うち80時間)</p> <p>実習期間 : 平成31年 7月22日～8月2日 *事前に4日間の見学実習あり</p> <p>実習内容 : 介護技術の実践 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践 施設の機能と職員の役割の理解</p>				
実習施設	岡山県内の グループホーム、小規模多機能型介護施設、通所介護 (グループホーム)				
評価法	実習態度、実習到達状況により総合的に評価する				
使用書					
参考書					
備考	詳細な実習先施設は介護総合演習内で通知				

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護実習 II	4単位 120時間		必修	1年次 後期	○村上 留美 樺 大輔 安東 由美子 宮本 義継
実習概要	介護実習IIでは、多様な介護サービスと状況の異なる利用者の理解に努める。また、利用者の生活支援を実践することで、多職種協働のあり方についても理解する。				
実習の 目的・目標	<p><目的> 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ</p> <p><目標> 1. 利用者と積極的にコミュニケーションを行うことができる 2. 利用者の生活を理解することができる 3. 目的をもって実習に臨むことができる</p>				
実習展開	<p>実習時間 : 8時間 × 15日間 (うち120時間) (1施設5日間 × 3施設)</p> <p>実習期間 : 平成31年12月2日～12月20日</p> <p>帰校日 : 平成31年12月15日</p> <p>実習内容 : 介護技術の実践 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践 施設の機能と職員の役割の理解</p>				
実習施設	岡山県内の 障害者支援施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設				
評価法	実習態度、実習到達状況により総合的に評価する				
使用書					
参考書					
備考	詳細な実習先施設は介護総合演習内で通知				

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護実習 Ⅲ	3単位 96時間		必修	2年次 前期	○椿 大輔 村上 留美 安東 由美子 宮本 義継
実習概要	介護実習Ⅲでは、利用者の尊厳、自立支援を念頭においた個別ケアを行うための介護計画立案を行う。また、訪問介護事業所での在宅実習を行う。				
実習の 目的・目標	<p><目的></p> <p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立支援を念頭においた個別ケアを行うための介護計画の立案ができる 2. ケースカンファレンスで介護計画をわかりやすく発表できる 3. 介護計画の修正を通して、自身の課題を明確にできる 				
実習展開	<p>①</p> <p>実習時間 : 8時間 × 10日間 (うち80時間)</p> <p>実習期間 : 平成31年5月13日～5月24日</p> <p>実習内容 : 利用者の尊厳の保持 自立支援を念頭においた個別ケアを行うための介護計画の立案</p>				
	<p>②</p> <p>実習時間 : 8時間 × 2日間</p> <p>実習期間 : 平成31年10月～1月</p> <p>実習内容 : 訪問介護事業における介護技術の確認 訪問介護事業における多職種協働の実践 訪問介護事業における利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践</p>				
実習施設	岡山県内の ①障害者支援施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設 ②訪問介護事業所				
評価法	実習態度、実習到達状況により総合的に評価する				
使用書					
参考書					
備考	詳細な実習先施設は介護総合演習内で通知				

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
介護実習 IV	5 単位 160時間		必修	2 年次 前期	○椿 大輔 村上 留美 安東 由美子 宮本 義継
実習概要	介護実習IVでは、利用者の尊厳、自立支援を念頭においた個別ケアを行うための介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程の実践について学習する。				
実習の 目的・目標	<p><目的></p> <p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立支援を念頭においた個別ケアを行うための介護過程の展開ができる 2. ケースカンファレンスで実践経過をわかりやすく発表できる 3. 介護計画の修正を通して、自身の課題を明確にできる 				
実習展開	<p>実習時間 : 8 時間 × 20日間 (うち160時間)</p> <p>実習期間 : 平成31年 8月26日～9月20日</p> <p>帰校日 : 平成31年 9月 8日</p> <p>実習内容 : 利用者ごとの介護計画の作成 実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の 介護過程の実践</p>				
実習施設	岡山県内の 障害者支援施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設				
評価法	実習態度、実習到達状況により総合的に評価する				
使用書					
参考書					
備考	詳細な実習先施設は介護総合演習内で通知				

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
発達と老化の理解 I	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	村上 重子
授業概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。				
授業の 目的・目標	<目的> 人間の成長と発達について医学的・心理的に理解する <目標> 1. 人間の発達段階について理解できる 2. 発達課題について理解できる 3. 老化に伴う心の変化について理解できる 4. 要介護者の心理状態について理解できる				
回	授業概要				展開方法
1	オリエンテーション 発達の概念が理解できる				講義
2	生涯発達の段階を理解できる 成長・発達に関わる遺伝的・環境的要因について理解できる 成長・発達の原理・法則が理解できる				講義
3	成長・発達に影響を与える要因とその影響について理解できる				講義
4	成長・発達に影響を与える要因とその影響について理解できる 遺伝的・環境的要因の関係に関する諸理論について理解できる				講義
5・6	発達理論とはどのようなものがあるか理解できる ①ピアジェ、エリクソン、パステルハヴィガースト理論 ②各理論と成長発達段階と発達課題				講義
7	身体的機能の成長と発達が理解できる ①身長・体重の変化 ②運動機能の発達 ③発達障害の理解 ④学習障害 (LD: Learning Disorder) ⑤注意欠陥多動性障害 (ADHD : Attention-DeficitH/HyperactivityDisorder)				講義
8	身体的機能の成長と発達が理解できる ①身長・体重の変化 ②運動機能の発達 ③発達障害の理解 ④学習障害 (LD: Learning Disorder) ⑤注意欠陥多動性障害 (ADHD)				講義
9	各発達段階にみられる疾病や障害を理解する ①胎児期・乳児期 ②幼児期 ③学童期 ④思春期・青年期 ⑤成人期				講義
10	ピアジェの認知発達理論に沿って誕生から青年期までの認知機能の発達について理解する				講義
11	各発達段階における社会性の発達について理解する ①乳幼児期 ②学童期 ③青年期 道徳・向社会的行動の発達性について理解する				講義

シラバス(授業計画)

12	老年期の定義の必要性を理解する 老年期を生物・心理・社会モデルから理解する 老化・加齢の用語の定義を理解する	講義
13	代表的な発達理論における老年期の発達の特徴を理解する 高齢者における人格の尊厳と「老い」の価値について理解する	講義・演習
14	喪失体験とその後の心理的過程を支援の視点から理解する	講義
15	老年期をめぐる今日的課題について話し合い、理解を深め介護福祉士としての資質を育てる	講義・演習
評価法	レポート・課題（10%）、取り組む態度等（10%）、終講試験（80%）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 12 『発達と老化の理解』 中央法規出版	
参考書	必要時随時提示する	
備考	毎時間、まとめをノートに記載してもらいます	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
発達と老化の理解 II	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	安東 由美子
授業概要	発達と老化の理解 I の学びを前提に、老化に伴う身体的・心理的・社会的変化が生活に及ぼす影響や高齢者の特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を学習していく。				
授業の 目的・目標	<目的> 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多く見られる疾病と生活への影響 健康維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する <目標> 1. 老化に伴う変化や生活への影響を説明できる 2. 高齢者の症状や疾病の特徴が説明できる				
回	授業概要				展開方法
1	循環器系、呼吸器系に関する加齢に伴う身体機能の変化を学ぶ				講義
2	消化器系、腎・泌尿器系に関する加齢に伴う身体機能の変化を学ぶ				講義
3	生殖器系、骨・運動器系、脳・神経系に関する加齢に伴う身体機能の変化を学ぶ				講義
4	感覚器系、皮膚、血液・免疫系、内分泌系、代謝系に関する加齢に伴う身体機能の変化を学ぶ				講義
5	老化に伴う身体的変化による生活への影響を学ぶ				講義
6	老化に伴う心理的变化による生活への影響を学ぶ				講義
7	老化に伴う社会的変化による生活への影響を学ぶ				講義
8	健康寿命とは何か、高齢者の特徴的な症状とは何かを学び、健康の意味を考える				講義・演習
9	生活習慣病において、高齢者に多い疾患やその生活上の留意点を学ぶ				講義

10	運動器系の疾患において、高齢者に多い疾患やその生活上の留意点を学ぶ	講義
11	知覚系の疾患において、高齢者に多い疾患やその生活上の留意点を学ぶ	講義
12	循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系の疾患において、高齢者に多い疾患やその生活上の留意点を学ぶ	講義
13	消化器系、脳神経系、精神系の疾患において、高齢者に多い疾患やその生活上の留意点を学ぶ	講義
14	感染症において、高齢者に多い疾患やその生活上の留意点を学ぶ	講義
15	チームケアとは何かを学び、保健医療職との連携の必要性を理解する	講義
評価法	授業態度（20％）、小テスト（20％）、定期試験（60％）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 12 『発達と老化の理解』 中央法規出版	
参考書	特になし	
備考	<受講姿勢について> ・積極的に発言すること ・小テストや課題は丁寧に取り組むこと ・提出期限は厳守すること	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
認知症の理解 I	2単位 30時間	15	必修	1年次 前期	○渡邊 洋子 宮本 憲男
授業概要	認知症の基本的な知識が理解でき、「その人らしさ」を大切にする介護の視点が理解できるよう授業を展開する。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 認知症介護について「その人らしさ」を大切にする介護をするための理論と実践方法を学ぶ</p> <p><目標> 1. 認知症に関する基礎的知識を習得する 2. 認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人・家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を理解する</p>				
回	授業概要				展開方法
1	①授業ガイダンス ②認知症とは何か ③認知症ケアの歴史 ④認知症ケアの理念と視点				講義
2	①認知症の中核症状の理解				講義
3	①周辺症状とBPSDの概念 ②BPSDのなかの心理（精神）症状				講義
4	①BPSDのなかの行動症状 ②意識障害の理解 ③中核症状とBPSD の整理				講義
5	①老化のしくみと脳の変化 ②脳の機能と認知症				講義
6	①認知症の記憶低下の特徴 ②認知症に類似した状態 ③演習2-3 認知症と類似症状の違い				講義
7	認知症の原因疾患 ①アルツハイマー型認知症 ②血管性認知症 ③レビー小体型認知症				講義
8	認知症の原因疾患 ①前頭側頭型認知症（ピック病） ②クロイツフェルト・ヤコブ病 ③慢性硬膜下血腫 ④正常圧水頭症 ⑤アルコール性認知症				講義
9	認知症の診断と治療 ①診断の過程 ②認知症の原因疾患の診断				講義

10	①認知症の重症度の評価 ②認知症の治療 ③演習 認知症の評価尺度をまとめる	講義
11	①認知症の予防 ②認知症の予防の対策	講義
12	①人の理解と介護 ②認知症の人の心理を考える ③認知症の人の心理的理解の方法	講義
13	①認知症の人の介護をしていくために	講義
14	①認知症の人の体験 ②介護がめざすもの	講義
15	①認知症の人の暮らしを理解する まとめ、総括	施設見学 講義(現地)
評価法	終講試験(60分) 結果(100%)	
使用書	最新介護福祉士養成講座 13 『認知症の理解』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
認知症の理解 II	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	○渡邊 洋子 宮本 憲男
授業概要	認知症の人をとりまく環境を理解し、認知症介護のあり方が考えられるよう授業を展開する。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 認知症介護について、地域に根ざした介護、チームケアなど本人と家族を中心とした切れ目のないケアのあり方を学ぶ</p> <p><目標> 1. 認知症が生活に与える影響や環境の及ぼす力、生活を支える上での視点を学ぶ 2. 認知症の進行に応じたかかわり方、すごす場の特徴を学ぶ 3. その人らしい生活を支える地域資源と多職種協働における介護職の役割、国、地域の支援体制を学ぶ</p>				
回	授業概要				展開方法
1	①認知症の理解II 授業ガイダンス ②認知機能の変化が生活に及ぼす影響 ③環境の力				講義
2・3	①生活を続ける 生活を構成する要素 生活課題を知る				講義
4・5	①若年性認知症の人の生活の理解と支援 ・若年性認知症の状況 ・生活上の課題と必要な支援のあり方 ・地域の社会資源				講義
6・7	①認知症のかかわりの基本 ・かかわる際の前提 ・かかわり方の基本 ②認知症への気づき ・気づきの学習 ・事例の振り返り				講義
8	①認知症の進行に応じた介護 ・初期、中期、後期の介護				講義
9	①認知症の進行に応じた介護 ・終末期の介護 ②人が生きることを支えるということ				講義
10	①地域におけるサポート体制 ②チームアプローチ				講義
11	介護者の体験を聞く				講演・座談会
12	若年性認知症、アルツハイマー型認知症の方の生の声を聞く				講演・座談会

13	①家族へのレスパイトケア ②家族へのエンパワメント ③家族会と介護教室	講義
14	認知症に関する制度・関係機関など	講義
15	まとめ、総括	講義
評価法	終講試験（60分）結果（100%）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 13 『認知症の理解』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
障害の理解 I	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	逸見 恵子
授業概要	障害の基礎的理解と医学的側面からの基礎的知識について学び、障害の捉え方と障害のある人の生活について学ぶ。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 障害についての基礎的知識を修得するとともに、障害のある人の生活を理解し、生活上・介護上の留意点を理解し、専門職としての関わり方を理解する</p> <p><目標> 1. 障害の概念を理解できる 2. 障害者福祉の基本理念が何かわかる 3. 障害のある人の生活を理解できる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	障害の概念を理解するために、わが国における法的定義の側面から理解する				講義
2	障害者福祉の基本理念として、ノーマライゼーションやリハビリテーション、インクルージョンの内容を学ぶ				講義
3	視覚障害のある人の生活 医学的視点としての眼の構造や眼疾患等について、心理的側面として中途失明等から理解を進め、生活・介護上の留意点を学ぶ				講義
4	聴覚・言語障害のある人の生活 医学的視点としての難聴とろうに違いについて、心理的側面として生活上の困難さ等から理解を進め、生活・介護上の留意点を学ぶ				講義
5	重複障害のある人の生活 医学的視点としての盲ろう重複の状態、心理的側面からはコミュニケーションの難しさから理解を進め、生活・介護上の留意点を学ぶ				講義
6	肢体不自由のある人の生活① 医学的理解として上肢・下肢の機能障害や体幹の機能障害等から学ぶ 心理的理解からは障害受容の過程と先天性と後天性の違いについて学ぶ				講義
7	肢体不自由のある人の生活② 生活の理解として余暇活動の頻度や補装具や日常生活用具を活用した生活の様子を学ぶ 介護上の留意点として、利用者との信頼関係や他職種との連携について学ぶ				講義
8	知的障害のある人の生活① 医学的理解として生物学的要因とその他要因やダウン症候群について学ぶ 心理的理解からはICD-10による基準やその人にとってどのような支援が必要かという視点を学ぶ				講義

9	知的障害のある人の生活② 生活の理解として本人活動や家族との関係から理解する 介護上の留意点として、「参加する」ことの意味やライフサイクルに応じた支援を学ぶ	講義
10	精神障害のある人の生活① 医学的理解として統合失調症と気分障害について学ぶ 心理的理解からは不安感や身体的症状の訴えなど再発や悪化につながる可能性について学ぶ	講義
11	精神障害のある人の生活② 生活の理解として生活上の障害の特徴を理解する。 介護上の留意点として、関係づくりを重視することや危機場面への介入方法等を学ぶ。	講義
12	高次脳機能障害のある人の生活 医学的理解として診断基準と具体的症状を理解し、心理的理解からは本人・家族の障害認識の受容等について理解し、生活・介護上の留意点については具体的対応方法等について学ぶ	講義
13	発達障害のある人の生活 障害特性を理解し、広汎性発達障害や学習障害、注意欠陥多動性障害について学ぶ。また、生活ニーズを踏まえての介護上の留意点についても理解する	講義
14	重症心身障害のある人の生活① 原因疾患を理解し、生活の特性と介護のポイントを学ぶ	講義
15	重症心身障害のある人の生活② 医療支援と医療的ケアについて、介護福祉士の業務範囲を理解し、他職種との連携のあり方を再考する	講義
評価法	授業態度（20％）、定期試験（80％）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 14 『障害の理解』 中央法規出版	
参考書		
備考		

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
障害の理解 II	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	安東 由美子
授業概要	障害の特性を踏まえ機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、障害のある人に対する介護やその家族への支援について学び、生活支援における地域のサポート体制、多職種連携・協働の必要性について理解を深めていく。				
授業の 目的・目標	<目的> 内部障害や難病における医学的理解やその特性に応じた支援の基礎的知識を習得するとともに、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する <目標> 1. 内部障害や難病のある人の生活を説明できる 2. 家族支援の必要性がわかる 3. 地域で支える役割を考えることができる				
回	授業概要				展開方法
1	心臓機能障害を医学的側面から理解し、障害による特性や生活のしづらさを学び、特性に応じた支援とその留意点を理解する				講義
2	腎機能障害を医学的側面から理解し、障害による特性や生活のしづらさを学び、特性に応じた支援とその留意点を理解する				講義
3	呼吸機能障害を医学的側面から理解し、障害による特性や生活のしづらさを学び、特性に応じた支援とその留意点を理解する				講義
4	膀胱・直腸機能障害を医学的側面から理解し、障害による特性や生活のしづらさを学び、特性に応じた支援とその留意点を理解する				講義
5	小腸機能障害を医学的側面から理解し、障害による特性や生活のしづらさを学び、特性に応じた支援とその留意点を理解する				講義
6	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害を医学的側面から理解し、障害による特性や生活のしづらさを学び、特性に応じた支援とその留意点を理解する				講義
7	肝臓機能障害を医学的側面から理解し、障害による特性や生活のしづらさを学び、特性に応じた支援とその留意点を理解する				講義
8	難病の定義を学び、障害による特性を医学的側面から理解し、生活のしづらさを学ぶ				講義
9	難病の特性に応じた支援や生活上の留意点を学ぶ				講義

10	自己決定、エンパワメント、権利擁護の視点から障害のある人に対する介護を学ぶ	講義
11	社会資源の利用方法を理解し、制度やサービスにとらわれない視点や工夫を学び、エンパワメントの視点から自立を考える視点を学ぶ	講義
12	家族支援の基本的な知識を学び、障害のある人の家族を支えるために必要なことが理解する	講義
13	家族と障害者、環境との関係性に着目した支援を理解し、家族の歴史や考え方を尊重した家族の介護力をふまえた支援を学ぶ	講義
14	地域のサポート体制の概念と社会資源の考え方を理解し、障害福祉サービスの利用のしくみと相談支援専門員の役割や協議会のもつ機能と地域のサポート体制づくりを学ぶ	講義
15	チームアプローチのあり方を理解し、保健医療関係職種にどのような種類があるかを学ぶ	講義
評価法	授業態度（20％）、小テスト（20％）、定期試験（60％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 13 『障害の理解』 中央法規出版	
参考書	特になし	
備考	<受講姿勢について> ・積極的に発言すること ・小テストや課題は丁寧に取り組むこと ・提出期限は厳守すること	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
こころとからだの しくみ I	2単位 30時間	15	必修・選択	1年次 前期	村上 留美
授業概要	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、人間のこころとからだについて医学的知識を学習する。				
授業の 目的・目標	<目的> 健康な状態を理解したうえで、こころのはたらき（脳）やからだの構造（呼吸器、消化器、循環器、泌尿器）・機能に関する知識を学ぶ <目標> 1. 健康について理解できる 2. 脳の構造と機能について理解できる 3. 臓器の場所がわかる				
回	授業概要				展開方法
1	健康な状態について理解する				講義
2	人間の基本的欲求の種類とその内容を理解する				講義
3	脳とこころの関係について理解する				講義
4	脳の機能について理解する（大脳の働き）				講義
5	脳の機能について理解する（学習・記憶・思考）				講義
6	脳の機能について理解する（認知・適応規制）				講義
7	こころとからだの関係について理解する（自律神経）				講義
8	脳・神経のしくみを理解する				講義
9	呼吸器の解剖と働きを理解する				講義

10	消化器（消化管）の解剖と働きを理解する	講義
11	消化器（消化腺）の解剖と働きを理解する	講義
12	泌尿器（腎臓・尿路）の解剖と働きを理解する	講義
13	循環器（心臓）のはたらきを理解する	講義
14	循環器（血管系）と循環のしくみを理解する	講義
15	総括	講義
評価法	小テスト（20％）、最終試験（80％）	
使用書	最新介護福祉士養成講座 11 『こころとからだのしくみ』 中央法規出版	
参考書	坂井 建雄（編集），河原 克雅（編集） 『ぜんぶわかる人体解剖図—系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説』 日本医事新報社	
備考	前回の授業内容の確認小テストを行います。 繰り返しの学習が必要な科目です。丸暗記をするのではなく納得できるように予習・復習を毎回30分は行ってください。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
こころとからだの しくみ II	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	村上 留美
授業概要	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、人間のこころとからだについて医学的知識を学習する。また高齢者に多い代表的な疾病について学ぶ。				
授業の 目的・目標	<目的> 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、高齢者に多い疾患の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ <目標> 1. 臓器の場所がわかる 2. 高齢者に多い疾患の概略が理解できる				
回	授業概要				展開方法
1	感覚器（視覚）の解剖と働きを理解する				講義
2	感覚器（平衡聴覚器）の解剖と働きを理解する				講義
3	感覚器（嗅覚・味覚・皮膚）の解剖と働きを理解する				講義
4	ホルモンの機能と内分泌のしくみを理解する				講義
5	内分泌（下垂体・甲状腺・上皮小体・睪臓・副腎・性腺・松果体・胸腺）の働きを理解する				講義
6	血液（赤血球・白血球・血小板）の働きを理解する				講義
7	骨の名称の復習（テスト形式）				講義
8	骨や関節の役割について理解する				講義
9	筋肉の役割について理解する				講義・演習
10	関節の運動と筋肉の働きを理解する				講義

11	高齢者に多い病気とその留意点が理解ができる 三大生活習慣病・糖尿病・高血圧	講義
12	高齢者に多い病気とその留意点が理解できる 骨・関節系疾患・関節リウマチ・脊椎管狭窄症・関節リウマチ	講義
13	高齢者に多い病気とその留意点が理解できる 脳神経系疾患（脳出血・くも膜下出血・脳血栓・脳梗塞・ パーキンソン病・脊髄小脳変性症）	講義
14	高齢者に多い病気とその留意点が理解できる 呼吸器系疾患（誤嚥性肺炎・喘息・肺結核・慢性閉塞性肺疾患）	講義
15	総括	講義
評価法	小テスト（20％）、最終試験（80％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 11 『こころとからだのしくみ』 中央法規出版	
参考書	坂井 建雄（編集），河原 克雅（編集） 『ぜんぶわかる人体解剖図—系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説』 日本医事新報社	
備考	前回の授業内容の確認小テストを行います。 繰り返しの学習が必要な科目です。丸暗記をするのではなく納得できるように予習・復習を毎回30分は行ってください。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
こころとからだの しくみ III	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	安東 由美子
授業概要	身じたく、移動、食事に関する支援を行う際に必要となる生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学び、事例や体験を通して理解を深めていく。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 身じたく、移動、食事の場面において介護実践の根拠となる、人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する</p> <p><目標> 1. 生活支援に関連したしくみを記述できる 2. 心身の機能低下が及ぼす影響を言語化できる 3. 事例を通して、実際の生活支援に応じた対応を考えることができる</p>				
回	授業概要				展開方法
1	身じたくをなぜ整える必要があるのか考え、その効果を理解し、身じたくによる心理作用やそれに関連するからだのしくみを学ぶ				講義
2	加齢に伴う身体的・精神的機能の低下が身じたくに及ぼす影響を理解し、身じたくを妨げる要因を学ぶ				講義
3	身じたくを支援する際に必要な観察事項を学び、対象の変化に気づく視点を養う				講義
4	身じたくに関する支援において、他職種と連携を図るうえで必要な判断を学ぶ				講義
5	身じたくに関する事例を通して、具体的な変化に気づきその対応を考える				講義・演習
6	人はなぜ移動する必要があるのか考え、その必要性や効果を理解し、移動に関連するからだのしくみを学ぶ				講義
7	移動が不自由になる要因を学び、それにより生じる状態を理解する				講義
8	目隠しや耳栓をして実際に歩行し、機能低下を生じた状態での移動を体験する				演習
9	移動を支援する際に必要な観察事項を学び、対象の変化に気づく視点を養う				講義
10	移動に関する事例を通して、医療職との連携を図るうえで必要な判断を学び、対象の具体的な変化に気づき、その対応を考える				講義・演習
11	人間に必要な不可欠な栄養素とはたらきを学び、摂取・嚥下(撮り込む、飲み込む)にかかわる解剖としくみを理解する				講義

12	身体的・精神的機能の低下が食事に及ぼす影響を理解し、食事動作を妨げる要因を学ぶ	講義
13	食事を支援する際に必要な観察事項を学び、対象の変化に気づく視点を養う	講義
14	食事支援に伴う、生命にかかわる異常な状態を学ぶ	講義
15	食事に関する事例を通して、医療職との連携を図るうえで必要な判断を学び、対象の具体的な変化に気づき、その対応を考える	講義・演習
評価法	授業態度（20％）、小テスト（20％）、定期試験（60％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 14 『こころとからだのしくみ』 中央法規出版	
参考書	特になし	
備考	<受講姿勢について> ・積極的に発言すること ・小テストや課題は丁寧に取り組むこと ・提出期限は厳守すること	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
こころとからだの しくみ IV	2単位 30時間	15	必修	2年次 後期	安東 由美子
授業概要	入浴・清潔保持、排泄、睡眠、死にゆく人の支援を行う際に必要となる生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学び、演習を通して理解を深めていく。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 入浴・清潔保持、排泄、睡眠、死の場面において介護実践の根拠となる、人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援に関連したしくみを記述できる 2. 心身の機能低下が及ぼす影響を言語化できる 3. 事例を通して、実際の生活支援に応じた対応を考えることができる 4. 「死」に対し、利用者や家族が受け取められる支援がわかる 				
回	授業概要				展開方法
1	入浴・清潔保持をなぜ行うのか考え、心身にもたらす効果を理解し、入浴・清潔保持に関連したからだのしくみを学ぶ				講義
2	加齢に伴う身体的・精神的機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を理解し、入浴・清潔保持を妨げる要因を学ぶ				講義
3	入浴・清潔保持を支援する際に必要な観察事項を学び、対象の変化に気づく視点を養う				講義
4	入浴・清潔保持に関する事例を通して、医療職との連携を図るうえで必要な判断を学び、対象の具体的な変化に気づき、その対応を考える				演習
5	排泄の必要性やその行為を理解し、排泄に関連したからだのしくみを学ぶ				講義
6	身体的、精神的機能の低下が排泄に及ぼす影響を理解し、排泄を妨げる要因を学び、その要因次第では改善可能な排泄障害があることを理解する				講義
7	排泄を支援する際に必要な観察事項を学び、対象の排泄パターンや変化に気づく視点を養う				講義
8	排泄に関する事例を通して、医療職との連携を図るうえで必要な判断を学び、対象の具体的な変化に気づき、その対応を考える				演習
9	人はなぜ睡眠を行うのか考え、睡眠の効果や引き起こすしくみを理解し、良質な睡眠条件や睡眠に関連したからだのしくみを理解する				講義
10	身体的、精神的機能の低下が睡眠に及ぼす影響を理解し、睡眠障害の種類や特を学ぶ				講義
11	睡眠を支援する際に必要な観察事項を学び、事例を通して、医療職との連携を図るうえで必要な判断を理解し、その変化や対応を考える				講義・演習

12	終末期のとらえ方を学び、尊厳死の意味を考える	講義・演習
13	終末期から「死」までの身体的変化と特徴を理解し、臨終期から死後までの対応を学ぶ	講義
14	「死」に対するこころの変化を理解し、利用者や家族が受け止められる支援を学ぶ	講義
15	終末期ケアにおける介護職と医療職の役割を理解し、医療ニーズの高い状態の場合に対する支援を学ぶ	講義
評価法	授業態度（20％）、小テスト（20％）、定期試験（60％）	
使用書	新介護福祉士養成講座 14 『こころとからだのしくみ』 中央法規出版	
参考書	特になし	
備考	<受講姿勢について> ・積極的に発言すること ・小テストや課題は丁寧に取り組むこと ・提出期限は厳守すること	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
医療的ケア I	2単位 30時間	15	必修	1年次 後期	村上 留美
授業概要	医療的ケア基本研修としての、医療的ケア実施の基礎を学習する。				
授業の 目的・目標	<目的> 医療的ケアを安全で、適切に行うために必要な知識と技術を習得する <目標> 1. 医療的ケアの必要性が説明できる 2. 感染予防について説明できる 3. 救急蘇生法が実施できる 4. バイタルサインが正確に測定できる				
回	授業概要			展開方法	
1	医療的ケアを行うための根拠となる法律を理解し、医療的ケアを実施するための心構えを理解する			講義	
2	医療的ケアの実践に必要な医療の倫理や自己決定権について理解する			講義	
3	医療的ケアを受ける利用者・家族の気持ちをグループワークを通して考える			講義・演習	
4	保健医療に関する諸制度（医療法・医師法・保健師助産師看護師法）についてまとめることができる			講義・演習	
5	喀痰吸引や経管栄養を安全に実施することの重要性を理解する			講義	
6	ヒヤリハット・アクシデントの報告の必要性を理解する グループワーク（危険予知トレーニング（KYT））を通して実践への意欲を高める			講義・演習	
7	バイタルサイン（体温・脈拍・血圧・呼吸）の正常値を知り利用者の変化が報告できる			講義	
8	利用者の健康状態を知るために正しくバイタルサインの測定ができる			講義・演習	
9	自己の健康管理の方法について理解できる			講義・演習	

10	感染予防の原則が理解できる	講義
11	感染予防の知識を学び、正しい手洗い方法が実践できる	講義・演習
12	救急蘇生法が必要な状況を理解する	講義
13	救急蘇生法の手順と留意点を理解し、実施できる	講義・演習
14	利用者の急変時に対応するための事前準備、報告、連絡網、記録の必要性を理解する	講義
15	総括	講義
評価法	小テスト（20％）、最終試験（80％）	
使用書	最新介護福祉全書 『医療的ケア』 メヂカルフレンド社	
参考書		
備考	前回の授業内容の確認小テストを行うため復習すること。 前期にバイタルチェック表を渡します。自分のバイタルサインを測定し所定用紙に記入してください。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
医療的ケア II	2単位 30時間	15	必修	2年次 前期	村上 留美
授業概要	医療的ケアの基本研修としての経管栄養の基礎知識を学習する。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護福祉士として必要な医療的ケア（経管栄養）を安全で適切に行うための知識と技術を習得する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系のしくみと働きが理解できる 2. 経管栄養が必要な状態とその方法が理解できる 3. 経管栄養における感染予防や急変・事故発生時の対応について理解している 4. 経管栄養の実施できる（胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養） 5. 医療チームの一員としての自覚と責任を身につけている 				
回	授業概要				展開方法
1	復習テストを実施し消化のしくみと働きについて確認できる				講義
2	消化器の症状について理解する				講義
3	経管栄養のしくみと種類、使用する器具、経管栄養の内容、取り扱いについて理解する				講義
4	経管栄養実施の手順と留意点を理解する。 経管栄養の滴下数の計算ができる				講義
5	経管栄養の手順を理解し実施できる				講義・演習
6	DVDを視聴しグループワークを行うことで、障がい児（子ども）の経管栄養について理解する				講義・演習
7	経管栄養に必要なケア（消化機能の促進・体位の保持方法・口腔内や鼻のケア・胃ろう部のケア）ができる				講義
8	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちを理解し、説明ができる				講義・演習
9	経管栄養に関する感染について理解し、予防対策ができる。経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認が実施できる				講義

10	経管栄養実施時の急変・事故発生時の対応と事前対応が理解できる	講義・演習
11	経管栄養実施に伴う医師・看護職員への報告および連絡について理解できる	講義
12	事例① 経管栄養（胃ろう）実施	講義・演習
13	事例② 経管栄養（胃ろう）実施	講義・演習
14	事例③ 経管栄養（経鼻経管栄養）実施	講義・演習
15	総括	講義
評価法	小テスト（20％）、最終試験（80％）	
使用書	最新介護福祉全書 『医療的ケア』 メヂカルフレンド社	
参考書	新介護福祉士養成講座 11 『医療的ケア』 中央法規出版	
備考	前回の授業内容の確認小テストを行うため復習すること。 講義最終日にノート提出をするためまとめておくこと。 演習やグループワークは積極的に参加すること。	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
医療的ケア III	2単位 30時間	15	必修	2単位 前期	安東 由美子
授業概要	喀痰吸引を必要とする対象者に対し、根拠に基づく手技が実施できるように喀痰吸引における基礎的知識や実施手順を学び、実際に使用する物品等を見せながら理解を深め、演習を通して実際に喀痰吸引の手技を体験する。				
授業の 目的・目標	<目的> 医療的ケアである喀痰吸引を安全・適切に実施するために必要な知識を身につけ、実際の方法を理解する <目標> 1. 喀痰吸引とは何かを説明できる 2. 根拠に基づく喀痰吸引の手技や留意点を説明できる 3. 模型を使用し、実際に吸引することができる				
回	授業概要				展開方法
1	呼吸のしくみとはたらきを学び、呼吸の重要性を理解する				講義
2	呼吸の観察方法を学び、いつもと違う呼吸状態を理解するとともに、呼吸困難や酸素不足が引き起こす状態を学ぶ				講義
3	痰が生じ排出するしくみを理解し、喀痰吸引の必要な状態を学ぶ				講義
4	人工呼吸療法の定義やしくみを理解する				講義
5	人工呼吸器装着者の生活支援上の留意点を学び、呼吸管理に関する医療職との連携に必要性を理解し、緊急を要する状態とその対応を学ぶ				講義
6	子どもの気道の特徴や子どもに使用する物品を学び、吸引の留意点を学ぶ				講義
7	痰を出しやすくする要素とは何かを学び、効果的な排痰方法を学ぶ				講義
8	吸引を受ける利用者や家族の気持ちを理解し、説明と同意の重要性を理解する				講義
9	呼吸器系の感染とその特徴を理解し予防方法を学ぶとともに、喀痰吸引により生じる危険な状態や事後の安全確認を学ぶ				講義
10	吸引による急変・事後発生時の対応と事前対策を学ぶ				講義
11	吸引における医師・看護職員への報告・連絡方法や記録の方法を学ぶ				講義
12	口腔内吸引の手順や留意点を学び、模型を使用して実際に吸引を体験する				講義・演習
13	鼻腔内吸引の手順や留意点を学び、模型を使用して実際に吸引を体験する				講義・演習
14	気管カニューレ内部の吸引の手順や留意点を学び、模型を使用して実際に吸引を体験する				講義・演習

15	事例を用いて、吸引を実施する	講義・演習
評価法	授業態度 (20%)、小テスト (20%)、定期試験 (60%)	
使用書	最新介護福祉全書 『医療的ケア』 メジカルフレンド社	
参考書	特になし	
備考	<p><受講姿勢について></p> <ul style="list-style-type: none">・積極的に発言すること・小テストや課題は丁寧に取り組むこと・提出期限は厳守すること	

教科目名	単位 時間数	回数	必修・選択	開講年次	担当教員
医療的ケア IV	2単位 30時間	15	必修	2年次 後期	○村上 留美 渡邊 洋子
授業概要	介護福祉士として、安全で適切な医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）が、実践できるよう授業を展開する。				
授業の 目的・目標	<p><目的> 介護福祉士として、喀痰吸引・経管栄養が安全に適切にできるよう、知識・技術・態度を習得する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 喀痰吸引・経管栄養に関する基礎的知識を習得する 2. モデル人形を使い、喀痰吸引（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管内吸引）が、安全・安楽に実施できる 3. モデル人形を使い、胃瘻・腸瘻、経鼻経管栄養法が、安全・安楽に実施できる 				
回	授業概要				展開方法
1～15	①技術演習ガイダンス ②喀痰吸引・経管栄養の知識、手順の振り返り ③経管栄養（経鼻経管栄養法・胃瘻・腸瘻）の手順確認 ④喀痰吸引（鼻腔内・口腔内吸引、気管内吸引）の手順確認				講義
	①喀痰吸引法、経管栄養法のデモンストレーション ＊各学生、4項目（①経鼻経管栄養法、②胃瘻・腸瘻の経管栄養法、③口腔内・鼻腔内吸引法、④気管カニューレ内部吸引）の技術試験を各5回以上合格することを評価基準とする				演習
評価法	実技試験（100％）				
使用書	最新介護福祉全書 『医療的ケア』 メヂカルフレンド社				
参考書	新介護福祉士養成講座 11 『医療的ケア』 中央法規出版				
備考	確実に実技ができるよう、休憩時間を利用し練習をしてください。				